

# 東京外国語大学 留学生支援の会

No.46  
第3回発行

Since 1999

## 会報

新規ご加入、ご寄付くださった皆様のご協力に御礼申し上げます。  
日本に来た多くの留学生は、皆様の支援を必要としています！！

Pick Up  
Event 2014

秋期バザー開催決定！バザー用品受付：9月22日(月)～9月29日(月)  
ボランティア募集！バザーの人手が足りません。(詳細24ページ！)

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5183/5759 FAX 042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

## INSIDE

Page 1.	1. 巻頭言
Page 2.	2. ご挨拶
Page 3.	3. 事業報告と事業計画(案)
	3-1 平成25年度事業報告
	3-2 平成26年度事業計画(案)
	3-3 平成25年度一般会計収支決算・平成26年度一般会計予算案
	3-4 平成25年度特別会計報告
Page 9.	4. 活動報告
	4-1 春期バザー報告
	4-2 鎌倉バス旅行
	4-3 工場見学
	4-4 大国魂神社くらやみ祭り
Page 17.	5. 留学生の声
Page 19.	6. 会員の声
Page 20.	7. 奨学生の声
Page 23.	8. これからの活動

※本号の挿絵には中村皓一さん撮影のドイツの写真を使用しています。

## FOCUS

### 1. 巻頭言

#### 留学の孤独と絆の力

大学院総合国際学研究院教授  
(アメリカ史)  
金井 光太郎

私は1982年から86年までの3年余りアメリカ合衆国ロードアイランド州のブラウン大学に留学した。

アメリカ革命・建国期研究の大家、ウッド教授の下で学びたいと勇んで行ってみたら、その年はサバティカルで授業も指導も受けられなかった。折角の意欲も虚しく空回りかと思つたらとんでもない。授業は課題が膨大で、日々指定文献を100から200ページほど読んでいくので、当面自分自身のテーマを研究する暇はなかった。アメリカでは勉強が大変だと聞いていて覚悟を固めて来たつもりであったものの、本当についていけるのか大きな不安を抱かざるをえなかった。最初の学期にはもういいから日本に帰ってしまおうかと思うことさえあった。

そうした時に、最も辛かったのは孤独感である。知り合いがまだいないというだけでなく、自分と同じような

思いを共有している人が周りにいると思えないことであつた。英語が母語の学生は一日 100 ページだつて楽に課題をこなしているのであらう。ディスカッションでも早口でもっともらしいことをまくし立てている。聞き取ることさえできない。

さらには、ペーパーを書く時のキーボード操作も 10 倍以上速いのである。徹夜して原稿を書き上げてても 10 ページもあると、私の場合タイプで仕上げるには 10 時間近くかかる。必死で打ち上げて提出、寝る暇はない。他方中学生以来練習しているアメリカ人学生は 1 時間もしないでタイプを終え、しっかり寝ている。留学生は同じ事情なのだろうが、歴史学課程では留学生はもう一人だけ。オックスフォード出身のイギリス人。要するに、自分のような苦勞を抱えている同級生は周りにいなかった。

しかし、学習を続けている間に、課題と優秀な同級生に圧倒されているのは、アメリカ人学生も同じだと分かってきた。英語にハンディがなくとも、一流大学での厳しい知的訓練が大きなプレッシャーなのは変わりが無い。

また、ホストファミリーのルロン＝ミラーご夫妻には、クリスマスに御両親のお宅に招待してもらい、多くの家族が遠方からも集まって絆を忘れないようにしていることを知った。個人主義とは違う面を教えてもらった。イギリス人留学生のリチャードは競争主義的「アメリカン」とは違った価値観を持ち、下手な英語でも熱心に話を聞いてくれて大いに語り合った。インターナショナル・ハウスという支援組織が主催する留学生の自国紹介イベントもありがたかつた。来ているアメリカ人はこちらの手な英語は覚悟の上だし、外国に興味を持っている人だと思つて話をすると勇気が湧いた。留学生支援の会の各国文化紹介のイベントも同じ勇気を与えてくれていると思う。ブラウン大学の中で少しずつ絆ができた。

ただ、留学生として社会の中においてそこで何らの貢献もせずにもらうだけで生きている物足りなさを感じていた。そういう時に、大学の日本語科目の TA を務めることになった。週に 1 コマの実習を担当し、宿題に赤を入れて返す仕事である。そこで何よりも英語を必死でやりとりする必要があつた。生徒なら分からなければスルーもできようが、教えている以上自分の言っている

ことを分かってもらい、質問内容は理解しないと聞けない。学生によれば私の英語が随分と上達したそうである。

この経験がすばらしかつたのは、私とのやりとりも一助となつて学生達が未知で難解な言語に興味を持ち、勉強に励み、上達してゆく、その手助けをしているとの実感であつた。ただもらうだけの人間ではなく与えるものがあると思えることで大きな充実感を得ることができた。

今、東京外大で難しい日本語で学んでいる留学生の皆さんも、ただもらうだけの存在ではない。日本社会で皆さんのユニークな存在が刺激となり、何か与えるものがあるはずだ。留学生支援の会も、日本側からの需(もとめ)を仲介していただけると留学の実が大いに上がることは疑いない。そうした面での支援も考えていただければ幸いである。

## 2. ご挨拶

### 新しい出発！

会長 中嶋 洋子

春なのか夏なのか、初夏、盛夏なのか、変化の激しい日々、これも地球温暖化の影響でしょうか？

会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか？

本号では、平成 25 年度の総括と 26 年度当会の新たな出発をお知らせしたいと思います。

前号で、26 年度新入学生から 4 年間分会費 12,000 円一括振込みいただくことをお知らせしました。そのため、財政的にかなりゆとりが出来ました。来年度以降もその状況は変わりません。

そこで、そのゆとりをどの方面に使わせていただくかについて、幹事会で話し合い次のようにさせていただくことになりましたのでご報告いたします。

#### 留学生支援の会奨学金の支給

趣旨：この奨学金は、東京外国語大学に海外諸国から来日している私費留学生のうち、学業、人物ともに優秀で、学費の支弁が困難なものに対して支給し、

学業の成就と友好の促進に資することを目的とする。

- ・奨学生の採用人数:学部生1名/大学院生1名
- ・奨学金の額及び支給期間:月額5万円/1年間

本年度奨学生:留学生課長の推薦のもと、当会幹事会で検討し、以下の2名に決定した。

学部生:

所属:国際社会学部日本専攻1年

カッサーマー ムハンマド ウバーダ(シリア)

大学院生:

所属:国際協力専攻 修士課程2年

ホ ホンジャ(中国(内モンゴル))

博士論文印刷費補助金(50,000円)、学会発表旅費補助金(20,000円)<平成12年度より>の支給

連絡室(当会事務・運営室)協力謝金の支給(毎日開室時1時間1,000円)の支給

以上ご覧になっていただくとお分かりのように、従来のイベントを増やすことはせず、留学生を支援するには、なんといっても直接的な経済援助が最も重要との考えに基づいています。

別件ですが、本号19ページに中村皓一さんのドイツ通信が掲載されています。

中村さんは当会幹事であり、なんと外国語学部ドイツ語専攻の現役学生でもあります。企業役員を退任後、新たな挑戦を果たして学生の身分となり、さらに現在ドイツの外語大提携校に留学をしています。人生後半の果敢な挑戦に圧倒されます。多大な成果を期待しています。



# REPORT

## 3. 事業報告と事業計画(案)

### 3-1 平成25年度事業報告

#### A. 生活支援事業

##### 1. 給付事業

(1) 生活用品・図書を廉価で給付するバザーを国際交流会館で開催しました。

###### 1) 春期バザー

平成25年4月9日~10日

場所 国際交流会館2号館交流ホール

来場留学生約200名

###### 2) 秋期バザー

平成25年10月1日~2日

場所 国際交流会館2号館交流ホール

来場留学生約250名

(2) 入院見舞金を贈りました。

入院5日以上 of 留学生2名に、

見舞金一人1万円を贈りました。

(3) 博士論文印刷費補助金の支給。

今期は対象がありませんでした。

(4) 学会へ出席して研究発表する留学生に旅費補助金を支給しました。

国外開催 1人5万円を1名

国内開催 1人2万円を1名

##### 2. 貸与事業

緊急貸付金を貸与しました。

「留学生緊急貸付基金」より、授業料

納入等で困窮している留学生に貸与

今期貸与 14名

基金総額 5,978,561円

貸付総額 4,838,400円

平成25年度当初貸付可能額 823,561円

##### 3. 相談事業

留学生の住居・学費・引っ越し、アルバイト等に関する相談に対応しました。



## **B. 友好親善事業**

### 1. 国際交流事業

「国際交流の夕べ」(留学生交流会)を大学と共催しました。

平成 25 年 12 月 13 日(金) 大学会館

参加者 留学生 約 250 名  
日本人学生 約 50 名  
来賓・大学・支援の会等 約 50 名  
合計 約 350 名

### 2. 会員等の協力による友好事業

(1) ホームステイを受け入れていただきました。

平成 25 年 8 月 1 日～3 日

静岡県沼津市 9 家庭に留学生合計 15 名

平成 26 年 2 月 21 日～23 日

北海道、群馬県、川崎市、富山県、  
名古屋市、奈良県のそれぞれ 1 家庭に  
留学生合計 15 名

平成 26 年 3 月 24 日～4 月 3 日

大学近郊の 5 家庭に留学生合計 6 名

(2) 地域の文化行事に参加しました。

1) 府中市文化祭

平成 11 月 10 日(日)留学生 11 名

2) 多磨駅前商店街の祭り

留学生 5 名

3) 武蔵野市ライオンズクラブお月見会

留学生 16 名

3) 鎌倉の文化財と自然環境の見学バスツアー。

平成 26 年 3 月 21 日(金・祝)

留学生 33 名、日本人学生 8 名

鎌倉在住会員 4 名、幹事 5 名、合計 50 名

4) 大国魂神社くらやみ祭りへ参加しました。

平成 25 年 5 月 4 日(土・祝)

留学生 11 名、日本人学生 3 名、幹事 2 名、  
合計 16 名

### (2) 日本文化の体験

1) 日本語広場を開設しました(通年・週 2 回)。

受講者 5 名、講師 2 名

2) 日本伝統文化教室を開催(通年・週 1 回)。

華道、茶道、書道、囲碁、尺八  
各教室合計留学生 200 名

3) 七夕茶会を開きました。

平成 25 年 7 月 9 日(火)

留学生 30 名

4) 「日本文化体験教室」を大学と共催。

平成 25 年 12 月 13 日(金)

振袖着付け、華道、茶道、墨絵、折紙、  
和紙人形、囲碁  
留学生 160 名

## **C. 相互理解事業**

### 1. 日本理解事業

(1) 日本文化の見学

1) 歌舞伎を鑑賞し、懇談茶話会を開きました。

平成 25 年 6 月 9 日(日)

「国立劇場歌舞伎鑑賞教室」

留学生 35 名、日本人学生 20 名、幹事 5 名、  
計 60 名

2) 東京下町ツアーを楽しみました。

平成 25 年 11 月 17 日(日)

隅田川クルーズ、浅草散歩、江戸東京博物館  
を見学し、ちゃんこ鍋を囲む懇親会を持ちまし  
た。

留学生 34 名、日本人学生 13 名、幹事 7 名、  
計 54 名

### 2. 国際理解事業

(1) 各国文化紹介—お茶とお菓子をとおして—  
各国のお茶とお菓子をとおして文化を説明  
してもらいました。

1) 第 16 回

平成 25 年 7 月 10 日(水)

アゴラ・グローバル カフェ

留学生・日本人学生 200 名

参加国 ミャンマー、スリランカ、  
ブラジル

2) 第 17 回

平成 26 年 1 月 22 日(水)

アゴラ・グローバル カフェ

留学生・日本人学生 200 名

参加国 スペイン、ベラルーシ、  
ラトビア



## (2) 小中学校の国際理解教育等への 留学生の派遣

- 1) 川崎市立はるひ野中学校
  - 平成 25 年 7 月 4 日  
インドネシア、フィンランド、ブラジル
  - 平成 25 年 9 月 12 日  
中国、台湾、タジキスタン
  - 平成 25 年 12 月 10 日  
中国、アメリカ、ベラルーシ
- 2) 町田市立真光寺中学校
  - 平成 25 年 7 月 13 日  
ミャンマー、ブラジル
- 3) 府中市立武蔵台小学校
  - 平成 26 年 1 月 28 日  
ニュージーランド、韓国 2 人、中国、  
ミャンマー
  - 平成 26 年 2 月 7 日  
ガーナ、台湾、韓国
- 4) 府中市立第 10 小学校
  - 平成 26 年 2 月 21 日  
ベラルーシ、トルコ、中国、アメリカ、  
韓国 2 人

## D. 広報その他の事業

1. 支援の会の「会報」誌を 3 回発行しました。  
No. 43 号 (平成 25 年 6 月号)、No. 44 号 (平成  
25 年 11 月号)、No. 45 号 (平成 26 年 2 月号)
2. ファイスブックをベースにしたホームページ  
に行事の記念写真を掲載しました。  
<https://www.facebook.com/tuufs.issa2>
3. 大学新入生入学式の際に会員募集の説明を  
しました。
4. 幹事会を開催しました。  
幹事が次のように幹事会を開いて、行事の企画・  
運営について相談しました。  
平成 25 年(第 1 回 5/19、第 2 回 6/22、  
第 3 回 7/21、第 4 回 9/29、第 5 回 10/20、  
第 6 回 11/4、第 7 回 12/8)  
平成 26 年(第 8 回 1/19、第 9 回 2/26、  
第 10 回 3/23)
5. 会員数 1,130 名  
(平成 26 年 6 月 20 日現在)

## 3-2 平成26年度事業計画(案)

### A. 生活支援事業

#### 1. 給付事業

- (1) 留学生支援の会奨学金の支給 **新規事業**  
(大学への協力)

対象：学部生・大学院生

人数：2 名

金額：月額 5 万円

期間：1 年間

- (1) 生活用品・図書のパザー (廉価で給付)

1) 春期パザー

4 月 8 日(火)～9 日(水)

2) 秋期パザー

9 月 30 日(火)～10 月 1 日(水)

- (2) 入院見舞金

入院 5 日以上に 1 人 1 万円

- (3) 博士論文印刷費補助

1 人 5 万円、5 人 計 25 万円

- (4) 学会発表者への旅費助成金

国外の学会参加者 5 万円

国内の学会参加者 2 万円、計 30 万円

#### 2. 貸与事業

##### 緊急貸付金

緊急貸付基金より授業料等緊急に必要な  
経費のために貸与。

#### 3. 相談事業

留学生の住居・学費・法律・引越し・子供  
の健康等の相談に連絡室にて対応する。

### B. 友好親善事業

#### 1. 国際交流事業

##### 「国際交流の夕べ」の開催 (大学と共催)

12 月中旬予定 留学生全員と一部日本人  
学生を招待。

福引商品の提供 **新規事業**

#### 2. 会員等の協力による友好親善事業

- (1) 会員の協力によるホームステイ・ホーム  
ビジットの受入れ

- (2) 地域の文化的行事への参加

## C. 相互理解事業

### 1. 日本理解事業

#### (1) 日本文化の見学

- 1) 歌舞伎鑑賞と茶話会  
6月8日(日)  
国立劇場「歌舞伎鑑賞教室」・茶話会
- 2) 東京下町ツアー・江戸東京博物館  
見学と相撲ちゃんこ鍋会食  
10月または11月を予定
- 3) 鎌倉文化遺産と自然の見学  
(日帰りバス旅行)  
平成27年3月予定
- 4) 日本の先進技術工場の見学  
12月予定
- 5) 地元のお祭り等文化的行事への参加

#### (2) 日本文化の体験

- 1) 日本語広場の開設  
週2回
- 2) 各種日本文化教室の開設(毎週)  
華道・茶道・書道・囲碁・将棋・尺八
- 3) 七夕茶会を開催  
7月開催
- 4) 「日本文化体験教室」の開設  
(大学と共催) 12月中旬開催

### 2. 国際理解事業

#### (1) 各国文化紹介—私の国のお茶とお菓子—

留学生同士の交流、日本人学生との交流の会の開催を年2回、各回3か国

#### (2) 国際理解教育授業への留学生の派遣

##### (大学への協力)

地元の小学校・中学校・高等学校からの要請を受けて、留学生を派遣。



留学生支援 会員の皆様ひとりひとりが

留学生の笑顔をつくれます!

## D. 広報その他の事業

### 1. 支援の会の「会報」誌の刊行

No. 46号(平成26年6月号)、No. 47号(平成26年11月号)、No. 48号(平成27年2月号)

### 2. ホームページ、フェイスブックの運営

### 3. 会員募集のための諸活動

大学新入生入学式の際など。

### 4. 幹事会の開催(毎月)

### 5. 非常勤職員を配置 **新規事業**

留学生支援の会連絡室にて  
1日4時間・週5日の留学生雇用



### 3-3 資料：会計報告と予算案

## 平成25年度 一般会計収支決算

東京外国語大学留学生支援の会 平成25年度 一般会計収支決算 平成25年4月1日～平成26年3月31日

#### 《収入の部》

科目	項目	25年度予算額	25年度決算額	
前年度繰越金		3,335,855	3,335,855	
会費	一般会員	1,218,000	4,014,000	3,000円×482名=1,386,000円 12,000円×219名=2,628,000円
	協賛会員	140,000	220,000	20,000円×11名(1名は5年分)
寄付	一般	484,000	599,000	
	緊急貸付基金	-	-	
その他	バザー等	470,000	405,805	バザー収益金・国際交流のタペカンパ・行事参加費
	利息	500	512	
収入の部合計(A)		6,648,355	8,575,172	

#### 《支出の部》

科目	項目	25年度予算額	25年度決算額	摘要
活動費 (友好親善事業・相互理解事業)	国際交流行事共催	400,000	386,370	伝統文化体験費・交流会費(大学との共催)
	史跡見学費	250,000	261,060	鎌倉見学
	日本文化見学費	500,000	504,707	歌舞伎見学・東京下町体験ツアー・ふじの国ツアー
	日本先端技術見学費	200,000	143,337	先端技術工場見学
	日本文化体験費	200,000	261,052	華道・茶道・茶道・日本語広場
	日本人学生との交流会費	200,000	203,803	茶・菓子等
	その他の交遊活動費	100,000	40,103	国際理解教育交通費・謝金
活動費 (生活支援事業)	教育研究支援金	500,000	70,000	博士論文印刷費補助金・学会発表出席旅費補助金
	入院見舞金	70,000	20,000	入院見舞金
活動費 (広報普及事業)	通信費	500,000	507,060	会報発送費等
	印刷費	350,000	526,470	会報印刷費等
	活動費小計(a)	3,270,000	2,923,962	
運営費	インターネット管理費	-	7,875	プロバイダー使用料
	消耗品費	20,000	9,424	プリンターインク代・コピー用紙代
	備品費	30,000	-	
	連絡室運営費	30,000	32,653	連絡室用携帯電話使用料
	郵便振替手数料	43,500	69,490	郵便振替手数料
	その他	250,000	238,800	アルバイト謝金
	運営費小計(b)	373,500	358,242	
予備費	(c)	100,000	-	
繰入金	緊急貸付基金(d)	100,000	155,800	バザー収益のみ
支出の部合計(B)	(a)+(b)+(c)+(d)	3,843,500	3,438,004	
次年度繰越金 (A)-(B)	(A)-(B)	1,804,855	5,137,168	

(A)-(B) = 5,137,168 円は、平成26年度へ繰越

上記の通り相違ございません。

平成26年5月31日

監事 川口 健一 (M)  
(R)

平成 26 年度 一般会計予算案

東京外国語大学留学生支援の会 平成26年度一般会計予算(案)

《収入の部》

科目	項目	26年度予算額	備考
前年度繰越金		5,137,168	
会費	一般会員	4,260,000	3,000円×300名 12,000×280名
	協賛会員	120,000	20,000円×6名
寄付	一般	400,000	
	緊急貸付基金	200,000	
その他	バザー等	400,000	バザー収益・国際交流のタペカンパ・行事参加費
	利息	500	受取利息
収入の部合計(A)		10,517,668	

《支出の部》

科目	項目	26年度予算額	摘要
活動費 (友好親善事業・ 相互理解事業)	国際交流行事共催費	470,000	伝統文化体験費・交流会費(大学との共催)
	史跡見学費	250,000	鎌倉見学
	日本文化見学費	500,000	歌舞伎見学・東京下町体験ツアー・ふじの国ツアー
	日本先端技術見学費	300,000	先端技術工場見学
	日本文化体験費	300,000	華道・書道・茶道・日本語広場
	日本人学生との交流会費	200,000	茶・菓子等
	その他の交流活動費	100,000	国際理解教育交通費・謝金
活動費 (生活支援事業)	留学生支援の会奨学金	1,200,000	奨学金2名
	教育研究支援金	500,000	博士論文印刷費補助金・学会発表出席旅費補助金
	連絡室協力謝金	660,000	留学生連絡室協力謝金
	入院見舞金	70,000	入院見舞金
活動費 (広報普及事業)	通信費	300,000	会報発送費等
	印刷費	270,000	会報印刷費等
	活動費小計(a)	5,120,000	
運営費	消耗品費	20,000	プリンターインク代・コピー用紙代
	備品費	30,000	
	連絡室運営費	35,000	連絡室用携帯電話使用料
	郵便振替手数料	60,000	
	その他	10,000	
	運営費小計(b)	155,000	
予備費	(c)	100,000	
繰入金	緊急貸付基金(d)	300,000	寄付200,000・バザー収益
支出の部の合計(B)	(a)+(b)+(c)+(d)	5,675,000	
次年度繰越金	(A)-(B)	4,842,668	

### 3-4 平成25年度特別会計

#### (緊急貸付基金)報告

(平成25年4月～平成26年3月)単位:円

1	前年度期末基金総額	: 5,822,761
2	バザー収益金	: 155,800
3	当期基金総額(1+2)	: 5,978,561
4	前期末貸付残額	: 4,999,200
5	今期貸付額	: 1,090,000
	14件(授業料等4件、生活費6件、 家賃・税金2件、帰国旅費2件)	
6	今期返済(回収)額	: 1,250,800
7	期末貸付残額(4+5-6)	: 4,838,400
8	貸付可能繰越金(3-7)	: 1,140,161
9	損金計上	: 460,000
10	次年度期初基金総額(3-9)	: <u>5,518,561</u>

今年度は、緊急貸し付け基金を開始してから13年目になります。開始時は、160万円だった基金総額も、582万円になりました。その間に、458名の留学生が学費、家賃、生活費などの理由でこの基金を利用し、留学生生活を続けてきました。

これもひとえに会員の皆様のご支援のおかげと感謝しております。今年度は、政府からの予算が増えて、授業料の全額免除者が増えたため貸付件数が減り、同時に返済額も増えました。

一方、母国の政治、経済状況の悪化で仕送りが止まったり、家族の状況の変化で帰国、休学することになったり、長期に返済できない留学生も多くいます。

今年度貸付額より返済額が少し上回ったのは、長期に借りていた留学生が卒業前には返済したいと頑張っ

て返してきたことに拠ります。それにもかかわらず今期末の貸付残額もあまり減少しなかったのは、できる限り連絡と返済督促に努めてきた借用者の一部が、結局返済不能(除籍や就職不可)や音信不通の状態になって、貸付金返済が滞ったためです。

それぞれに難しい事情があり、残念なことです。緊急貸付運用指針に基づき、回収が極めて困難と思われる46万円については、損金処理をすることになりました。

(貸付担当幹事 梅田由美子)

## REPORT

### 4. 活動報告

#### 4-1 [春期バザー]

2014年春期バザーへのご協力  
ありがとうございました

留学生支援の会

今年の春は寒暖の差が激しかったためか、桜の開花が遅く、新入生を満開の桜が迎えることになりました。留学生は、初めての日本の春は素晴らしい!と思ったことでしょう。

皆様、お変わりなくお過ごしのことと思います。

今春のバザーもまた、新学期開始早々の4月8日、9日の2日間、交流会館2号館の交流ホールで開催しました。

今回も多くの方々が多種多様な品物を送って下さいました。加えて、帰国や就職する留学生たちも後輩のためにと、残して行ってくれた品物もありました。

電気釜、掃除機、レンジ、アイロン等々の電気製品、寝具、タオル、文房具、靴、春物の衣類、着物、机、本箱、手作りのエプロン、甚べえ、台所用品、食料品などが沢山ありました。書籍類は、思いのほか少なかったです。

掲示やオリエンテーションでの説明だけでなく、先輩からの伝言もあつてか、留学生が2日間で200人ほど参加しました。

今回も、原則として新品の電気製品は1,000円以下、その他はみな100円以下、書籍は無料で留学生に渡しました。参加した留学生たちは、新しい生活を

始めるのに必要なものが、バザーでそろえられることがとても嬉しいと、色々選んで、喜んで持ち帰っていました。

毎年、電気製品、寝具などは真っ先に予約済みになりますが、これから着られる衣類、靴、鞆なども、自分に似合うものをそれぞれ選んで持っていきます。書籍類は、辞書、教材、漫画、児童文学などが早くなくなりなりました。

いつもの事ですが、喜んでいる留学生の顔を見ると、支援の会の担当者として、役に立てて良かった、皆様のご協力のおかげ、と疲れなど吹き飛ばしています。

今回も、お皿やコップ、台所用品、衣類、書籍など残った物は、次回のバザーに回すことに致します。

### バザーの収益金は、93,000 円でした。

※いつもながら毎回、送料もいわず、様々な品物を提供して下さった会員の皆様には、留学生ともども心から感謝申し上げます。

### 留学生支援の会のバザーに感謝！！

研究生(中国)  
カンケンシン

4月の最初に、留学生支援の会により開催されたバザーに参加しました。並んでいる商品が豊富すぎてびっくりしました。中古品も新品もあり値段も非常に安かったです。私はその時ちょうど引越しようとしていた時期なのでほしいものがたくさんありました。日本で部屋を借りる場合、私の母国(中国)の家具付きと違い、ほとんど空っぽの部屋です。

はじめて異国でひとり暮らしをする私には、家電製品から小さいものまで、もし全部新品だったら結構お金がかかるでしょう。中古品の場合は確かに節約できますが、私は女の子で、車もないですし、大きな中古品の家具を買う場合、どうしようもないです。

バザーでものを買うときに、その心配もありまして、留学生支援会の方に聞いたら、家まで運んでくれると言われました。ほんとうに助かりました！はじめの日

に、バザーでとてもいい洗濯機とおでん鍋(中華鍋もできると思うからこれを買った)と包丁とフライパンを、驚くほど安い値段で買いました。翌日、またバザーに来てとてもいいベッドを見つけて思いきって買いました。

その後、入居日の直後、週末の日に井上さんとご主人が時間を割いてくれて、二人で一緒に多磨から武蔵境まで私が買ったベッドと洗濯機を車で運んでくれました。

私が住んでいる部屋は二階で、井上さんとご主人と一緒に手伝ってくれて家に運び込みました。その後、とても親切に洗濯機の設置までしてくれました。何も無い部屋はあつという間に家らしくなって、とても嬉しかったです。

中国には「すべてのことは始まりがもっとも難しい」という諺があります。日本に来たばかりの頃、すべてのことが難しかったときに、手伝ってくれた方たちに心から感謝しています。

留学生支援の会はバザー以外、たくさん日本の文化に関するイベントを主催しているらしいです。それは私たち留学生にとって、日本社会と日本伝統文化への理解を深めるためにはとても役に立つと思います。これからも留学生支援会のイベントに積極的に参加して行きます。

## 4-2 [工場見学]

### 先進製造技術工場見学 その2

～サントリー、日産自動車～

1. 日 時 2月24日(月) 9:00～17:15
2. 参加者 留学生 25 名、日本人学生 5 名、  
留学支援室 1 名、  
留学生支援の会: 4 名 計 35 名

### 募集・当日集合(9:00)

募集段階では、時期的に試験中であることと、留学生のかなりの部分が帰国準備中ということで、昨年同様苦戦した。他の行事との重複を避ける意味からこの時期の開催は止むを得ないが、次回以降はより

効果的な広報方法を考えていく必要がある。

当日は 40 名の事前申し込みに対し、留学生で 4 名、日本人学生で 1 名の欠席が発生した。直前に支援の会から電話で確認をしたにも拘わらず、残念。

一方、当日朝の集合は順調で、大半の学生が 9:00 前にきちんとバスに乗車してくれた。

### サントリー武蔵野工場(10:00~11:15)

プレミアムモルツというヒット商品を製造する当工場は、大学から近いということもあって好適な見学対象である。9:20 頃には出発したが道路が渋滞し、到着は 9:55 とギリギリのタイミングであった。見学前に DVD で簡単な紹介をいただき、いざ工場へ。



(サントリーにて)

まずはビールの原料を紹介されたが、水の品質の重要性が強調された。また、麦とホップの独特の香りに一同ビールにおけるその位置づけを改めて認識した。原料は殆どチェコ産ということで、参加してくれていた同国からの留学生 2 名も誇らしげ。

原料工程に続き、仕込、発酵、貯酒、濾過を経て最終の缶・樽詰工程へと案内していただいたが、各工程とも限りなく自動化されており、実際の製造工程ではあまり作業者を見かけなかった。

そして、いよいよお待ちかねの”試飲タイム“、参加者の大半が待ちわびていて、いくつかのテーブルに分かれてしばしのビール談義。最初の 1 杯は当然プレミアムモルツであったが、最大 3 杯まで試飲可能で、かつ 2 杯目、3 杯目には別の銘柄にトライできる。おつまみまで付いていて、まさにお得。

あちこちで記念撮影が花盛り。また説明をして下さったスタッフの方の丁寧な対応もあって、皆大満足。

### 昼食(車内)

本来は午後の見学先である追浜近辺で海産物を振る舞うつもりであったが、道路事情によっては時間不足となる可能性があるために断念し、大学近隣のベーカリーからサンドイッチ、キッシュ、スコーン等を購入して車内で食した。味的にも量的にも十分満足のいくものであったし、午後の見学に向けて時間的にはこれでも余裕はなく、結果としては賢明な選択であった。

### 日産自動車追浜工場(13:30~15:15)

世界初の電気自動車量産工場ということで、さすがに新車のショールームにはリーフが陳列されていたが、それ以外にも若者に人気のジュークも。

そして最初は全く分からなかったが、鮮やかな黄色の NYC なる車もあり、それがニューヨーク市のタクシー用の車であるを知ってビックリ。リーフはボンネットの部分から充電でき、一度の充電で 250km 近くの走行が可能で、馬力は 3,000CC のガソリン車に匹敵するとのこと。



(日産のショールームにて)

そして、いよいよ車の製造現場へ。この工場は見学者を製造ラインのすぐそば迄案内していただけるので、臨場感溢れる見学となった。

まずは、各種部品の取り付け作業であるが、車の外板だけが次から次へと流れていくのに対し、自動的に選ばれて運ばれてきた部品を動きながら取り付けていく。その車体はまさに“注文を受けた順番”で流れてくるため、一台一台車種もカラーも仕様も異なるが、それらを同一のラインで淡々と製造する管理・



制御技術に感心させられた。

この辺が日本の“先進技術”の一端なのであろうか。また、ちょうどリーフのバッテリー取り付け作業を見学できた。まさに電気自動車の心臓部であろうか、巨大なものであった。

あとは、性能検査、車体全体のチェックを経て、新車の誕生となるが、製造に要する時間は 16 時間、うち8時間が塗装工程(含む乾燥時間)に要するものであり、ユーザーの色彩や表面仕様に対する要望への対応に腐心していると感じた。

見学後の質疑応答では日産の人事政策や入社の可能性の関するものもあり、留学生の日本での就職への関心の高さがうかがわれる。

ほぼ予定通り、17:20 に大学に帰着。

(幹事 中村 皓一)

## Nissan の大ファンにとっては夢のような体験

大学院博士前期課程 1 年  
パルピエフ・サンジャル  
(ウズベキスタン)

このプログラムで Suntory と Nissan それぞれの工場に行くととてもよかったです。日本だけではなく、世界中で広く知られているこの会社の工場に行くチャンスはなかなかないと思います。

Suntory の工場に行ったときは、職員の丁寧で、分かりやすい説明がとても気に入りました。また工場内の清潔さに驚きました。どこもとてもきれいでした。普段工場だと少し汚れているイメージがありますが、実際は違っていました。

ビールの生産を見て感激しました。それを見て、日本の技術は素晴らしいと再び思いました。最後のビールの試飲も日本の特別なおもてなしの現れだと思いました。日本のこのようなお客さんのことを大事にすることがいつも感動的です。ですから世界にとっても好まれていると思います。

Nissan 自動車工場での印象はもっと素晴らしかったです。なぜかというと、私は車に興味を持っていて、しかも一番好きなのは Nissan の車だからなのです。

私のような Nissan の大ファンが工場に行って、生産を実際に見るということは、まるで夢のようなことだと思います。最初にショールームで車に乗ってみたことはいい体験でした。その後は工場についてのプレゼンテーションを見て、いろいろな情報を得ることができて、いい勉強になりました。

特別に主張したいのは、職員の素晴らしい発表です。とても丁寧で、スムーズに説明していただいて、感動しました。教えていただいた情報が多かったですが、発表の時一回も忘れず、止まらず、発表したのは素晴らしかったです。どれだけ練習したのでしょうか。

プレゼンテーションが終わってから、車の生産を見に行きました。そこでまた驚いたのは、工場内のきれいな様子でした。様々なゾーンを問わず、どこでもきれいでした。

車を創る従業員が速いスピードで作っていました。若い人もいれば、中年ぐらいの人もいました。私が持っていたイメージより従業員が若かったです。そして様々な部品を運ぶ無人ロボットが走っていました。人や物にぶつかるのを予防するためにサイレンを流していました。そのサイレンはあるアニメの曲だそうです。とてもかわいかったです。

あと本当に驚いたのは、すべての自動車は注文で生産されることです。つまり、お客様が自分の好みで様々な性能などを選ぶと、その通り作られるということです。そうなるとその注文で作られた車は世界に一つしかないものになるということです。私はこれまで、全部の車は同じだと思っていました。

また印象的だったのは、midnight purple という色を見られたことです。この色の車が日本で 300 台しかないそうです。

生産をじっくり見られたことがとてもよかったです。この見学ツアーに参加できて、とても嬉しかったです。これからもこのような素晴らしいツアーを行っていただければ、ありがたいです。

ご意見、感想など、会報への  
**投稿募集** どしどし  
お寄せ下さい



## 4-3 [鎌倉バス旅行]

### 工場見学ツアーに参加して

外国語学部ポルトガル語専攻 4年  
江川沙織

これまで国際交流サークル TOFSIA に所属し留学生との交流を行なってきましたが、留学生支援の会が企画する会には、今回初めて参加させていただきました。

留学生は工場見学を通して、ただ日常生活をおくだけではなかなか知る機会の無い日本の一面に出会えたのではないかと思います。もちろん私たち日本人学生も同様に、日本の高い技術力を目の当たりにして新たな発見が多々ありました。

留学生と共に本当に有意義な時間を過ごす事が出来たと感じます。

私自身は4年生に進級してからというもの、授業数・登校日数が減る事で留学生との交流も減ってしまう一方でした。交流があったのは同じゼミに所属する研究生や院生など、私より日本語が上手で日本文化に博識なのではないか、とってしまうような学生くらいです。今回のツアーでは幅広い日本語レベルの学生と出会い、交流する事が出来ました。

工場見学中のガイドは全て日本語だったため内容を理解しきれない学生もいたようですが、自分の拙い英語でも通訳としてサポートにつく事を心掛けました。

その結果、英語に対する学習意欲が増すと同時に、日本の優れた技術を伝えるためには日本の事ももっと知らなくてはいけない、という事を改めて考えるようになりました。

4月からは就職し、学生ではなくなりましたが、これからも留学生と交流する機会を持ち、日本について伝える場に関わっていけたらと思います。

今回の工場見学ツアーを企画してくださった中村さん、当日お世話になった留学生支援の会の皆様、交流した全学生の皆さん、本当にありがとうございました。



### 鎌倉見学旅行に参加して

1. 日 時 3月21日(金・祝)
2. 参加者 留学生 33名、日本人学生 8名、  
鎌倉在住会員 4名、  
留学生支援の会:5名 計 50名

前日の悪天候がうそのように晴れ渡った朝、集合場所の新宿の工学院大学への道を探しながらいやな予感がしていました。これはちょっと留学生には難しいぞ？

予感は的中してしまいました。集合時間になってもメンバーの半分しか集まりません。

幹事は道に迷った留学生との電話連絡に追われ、一人を電車で向かわせることになり、結局出発は30分以上遅れてしまいました。

それでも無事に出発、お台場、レインボーブリッジ、みなとみらいの高層ビル群、輸出用の車が整然と並ぶ港。雪を頂いた富士山が青い空をバックにとてもきれいでした。

バスガイドさんの笑顔が素敵なお話や全員の自己紹介、留学生の日本での生活などのお話を聞いているうちにだんだんと社内の雰囲気も和んで来て、バスの遅れの緊張感も薄らぎました。一方でそんな中、鎌倉在住会員の方々はとても気を揉んでお待ちになったのだと思います。

予定を1時間程遅れて最初の訪問場所、建長寺で無事に鎌倉の方たちと合流することができました。皆さんは入念にご準備をされていらして、説明もとても興味深いものばかりでした。学校では習うことのできなかった鎌倉幕府の詳細なお話。数々のエピソードを交えてたくさん学ぶことができました。

予定滞在時間を短縮して次の鶴岡八幡宮に向かいましたが、何しろ春の連休の初日、しかも好天、道は人と車であふれかえっていました。鶴岡八幡宮はさらに混雑していて、参加学生の姿は簡単に見つけれません。バスの集合時間にちゃんと皆たどりついているのかひやひやしました。

昼食場所である「ホテルわかみや」では8人程の円

卓にきれいにセットされたミニ懐石が並んでいました。海鮮中心のお料理は学生たちにはとても好評で、ほとんど残した人はいなかったと思います。

テーブルはほとんど同じ国の仲間同士で座っていたので、できれば国と地域をばらばらにして交流の場にしてほしかったと思いました。

後半は由比ヶ浜海岸散策からスタートしましたが、予定を1時間もオーバーしてしまいましたので、その後の見学もやや急ぎ足となりました。海岸では楽しそうに遊んだり写真を撮る姿が見られました。遠く伊豆大島も見えました。

俄かに黒い雲が近づいて来て心配もしましたが、雨に降られることはありませんでした。

道路が混んでいたため、徒歩で長谷寺に向かうことになり、歩道を歩くグループと海岸を歩くグループで分かれて進みました。中世からの街は道幅がとても狭く、車と人がギリギリですれ違うことも多々ありました。

長谷寺もたくさんの参拝客で賑わっていましたが、本堂の観音様の荘厳なお姿に圧倒され、展望台からは相模湾を見渡すことができました。ここでも時間が短縮され、とても残念に思いました。

最後の訪問場所、大仏様も入場するのに長い列が出来ていました。大仏様のお姿は留学生たちにとってどのように映ったのでしょうか。



(大仏様の前で)

驚くことに、大仏発は予定の時間に戻っていました。それほど間の予定を詰めたということでしょう。鎌倉のメンバーに別れを告げ、バスは東京へと向かいました。

一日歩きまわってとても疲れたのでしょう。バスの学生たちはほとんどが眠っていました。予想されていた通り、道路の混雑はすごくて、最後の30分ほどは歩いた方が確実に速いと思われるようなノロノロ状態となり、結局、新宿西口に戻ったのは予定を2時間くらい越えていました。

昨年の浅草ツアーに参加していたので、雰囲気はだいたいわかっていましたがとても有意義な一日でした。

今回日本人学生から聞いたのですが、このような支援の会のプログラムが意外に日本人学生に知られていないのだそうです。もっと早く知っていたら以前の企画にも参加したかったと言われました。掲示場所など見直した方がいいのかもしれませんが。

今日は連休の初日、好天、首都高3号線の火災などいろいろなことが重なり、時間をロスしてしまいましたが、企画としてはとても成功だったのではないかと思います。

バスから降りる学生の満足そうな笑顔に、この企画は是非来年も続けて欲しいと思いました。長いバス旅の疲れが吹き飛ばす瞬間でもありました。

鎌倉でお世話になった皆様、本当にありがとうございました。

(幹事:竹内 朋子)

## 鎌倉の見学は楽しかったですか。

鎌倉在住会員 菅原恵美子

春分の日(3月21日)、暖かな一日を留学生と支援の会の皆様を案内して鎌倉をめぐる予定です。

ガイドの望月さん、関口さん、花を持って歩いた野中さんと菅原は若い人たちとご一緒に過ごせて楽しかったです。

朝、バスの到着が遅れて、時間の調整に気をもみましたが、まずは建長寺をスタートに鶴岡八幡宮を見学していただきました。お寺と神社の違いを望月さんが説明されていましたが理解できたのでしょうか。

昼は海の近くでの食事と砂浜を歩きました。鎌倉の地形が実感できたのではないのでしょうか。

昼食時「魚を日ごろ食べる機会がないので、満足」と青年がおいしそうに食べていたのが印象的でした。

午後は露座の大仏、長谷の観音さまとお参りしました。祝日のためか人出の多いことに私たちは驚きました。

午後4時、予定通りに帰路につかれほっといたしました。

鎌倉の遠足は楽しかったですか。鎌倉は季節おりおり趣が異なります。一度ならずまた訪れてみてください。お待ちしております。



(好評だった昼食)

## 鎌倉観光—多文化交流と日本紹介

言語文化学部中国語専攻1年  
グエン バン フック(ベトナム)

3月21日に留学生支援の会の方々の引率のもと、日本人学生と外国人学生がともに参加する鎌倉観光というイベントが行われました。

今回の計画は、工学院大学新宿キャンパスで集合し、バスに乗ってお台場や海面下を通りながら、鎌倉で仏教寺院や神道神社、さらに海、なにより有名な大仏を見物し、背景の違う者同士の多様性を楽しみながら、現地ガイドをやって下さる卒業生から日本の伝統的な街や建物の説明を聞き、これらの伝統文化に対する理解を深め、再び東京に戻るという流れでした。

実際、バス内では自己紹介をはじめ、大学院生として日本に留学している学生が自分の体験を語ったり、また「私は幸せです」の各国の言葉の響きを味わったりし、交流の面では新鮮な気持ちでいっぱい

でした。

鎌倉に着くと、現地では東京外大の卒業生であるガイドの方々がすでに迎えに来て待ってくださっていました。建長寺、鶴岡八幡宮、長谷寺では見物を開始する前に建物の紹介、見どころ、さらにその歴史文化の背景を説明されました。

個人的に印象深かったのは長谷寺にあり、撮影が禁止されている重要文化財・十一面観音が助けの必要な人々が見えるように多くのお顔をもつということです。

旅の最後には誰もが待ちに待っていた大仏見物でした。学生たちは写真撮影に夢中でした。鎌倉と言えば大仏と、多くの日本語教材や雑誌などによってその様子を見ることができますが、今回初めて僕の目の前に大仏が大きく高く、空にそびえ、堂々とした姿で現れたのです。

大仏を一周まわり、裏側に窓みたいなのを発見しました。このことを先生に聞くと、実はそれはなんと、鎌倉時代の人々がこのような巨大なものを作るための仕掛けでした。先生は図を見せながら、その作り方を含め、大仏の他の目に見える特徴の由来を説明してくださいました。古い時代だけにあってそれほど高い技術を持っている日本人とその文化に強く感心しました。

鎌倉の一日は朝8時10分からと、わりと長かったと思いますが、非常に充実した一日でした。昼食も和食、帰りのバスからは素敵な日の入、国会議事堂の夜景などなど、最後の最後まで全員が観光を楽しむことができました。

このような機会はとても貴重だと思います。外国から日本にやってくる学生、日本でなんとなく育ってきた学生、どちらにとっても新しい発見ができたのではないかと思います。このイベントを計画して下さった留学生支援室の先生方、現地でガイドをして下さった先生方、このような機会を提供していただき、ありがとうございました。



#### 4-4 [大国魂神社くらやみ祭り]

### 久々のバス旅行で鎌倉へ

外国語学部朝鮮語科4年  
服部茉歩

友達のひよんな誘いをきっかけに、留学生支援の会が計画してくださった鎌倉の日帰り旅行に行くことができました。

このような大人数でバスに乗って出掛けるのはとても久々に、子供の頃に戻ったようにはしゃいでいました。バスの中で飛び交う様々の言語と笑い声と、もちろんお菓子で2時間の旅もあっという間です。

最初の健長寺では、まだ少し肌寒い中濃い色の桜の蕾が咲き始めていました。一年の中で、一番日本らしさを感じることができる季節ではないでしょうか。

鶴岡八幡宮の長い階段は、見上げるだけでわあーと声が出ます。そんな階段を昇り、下ると次は待っていた昼ごはんです。

様々な国と文化の人がいることに気を使っていただけ、肉をあまり使わず魚を中心とした、とても豪華な昼食でした。私はごはんを食べるときに、何の肉を使ってどう作られたのかなど、気にしたことがあまりなかったのですが、他の人には気をつかなければならないのだなと、実感しました。

昼食の後は由比ヶ浜を散歩しました。まだ寒く、入れなかったのですが、海が近くにいる国の人はとても大喜びです。

そして鎌倉と言ったら、鎌倉大仏。大きさにはやはり圧倒されます。日常では毎日を感じることはできないかもしれませんが、日本にはこんなにも素敵なお寺があるのだなとしみじみ感じました。

このような機会を与えてくださりありがとうございました。

留学生の笑顔で、

私たちも笑顔になりたいものです。

### 大国魂神社の「くらやみ祭り」に参加して

1. 日 時 5月4日(土)
2. 参加者 留学生23名、日本人学生1名、留学生支援の会2名、計26名

天気は快晴でした。秋山さんが外大前からのバスで学生たちを引率してきてくれたので集合がうまくいきました。

赤班、黄色班、青班に分かれ、各班に2名のガイドが付いて出発しました。

祭りの2日目で、ケヤキ並木も参道もお祭りの店と人で一杯の中を、万灯と子供神輿が何台も通るのを見ながら、鳥居をくぐり、手水舎で手と口を清め、神社のお参りの仕方を習い、拝殿に参拝しました。

その後、拝殿の後ろの本殿に鎮座する6台の大神輿を見学して説明を受けました。本殿の回りにある6つの神社を巡りながら由来を聞きました。

千年余の銀杏の木は、むかし乳の出の悪い人が触りながらお願いすると出が良くなる御利益があったそうです。

その後神社のお休み所で、支援の会から差し入れられたよもぎ鰻頭、柿の種を食べながら休憩しました。

当日がお誕生日のラーソンさん(アメリカ)に鯉のぼりの玩具をプレゼントして皆で祝いました。彼はとても嬉しそうな笑顔をしていました。

お休み所から借りた法被と烏帽子を各自つけて写真を撮りました。



(当日が誕生日だったラーソンさん)



次は、甲州街道と府中街道の交差点にある「六所宮御旅所と府中高札場(昔の情報センター)」を見学しました。

そのあと筋向かいにある 15 年余の老舗(中久酒店)で日本酒を振る舞われ、飲める人は笑顔を浮かべながらたしなんでいました。最後に甲州街道を歩き、伊勢丹のフォーリスで散会しました。

今年は、申込み時に『大国魂神社』(社務所生)を配り、当日は英文の説明書を渡しました。

(幹事:杉森 弘子)



(観光ボランティアと一緒に記念写真)

## 大国魂神社のくらやみ祭に参加して 感動した日本のボランティア精神

研究生

ラーソン・ベンジャミン(アメリカ)

5月4日、府中駅で大国魂神社のくらやみ祭を案内してくださる府中市観光ボランティアの方達と待ち合わせた。

観光ボランティア1人に留学生4人ずつのグループに分かれた。アメリカ人である私が韓国人2人とロシア人1人のグループに入った。

観光ボランティアは最初上手な英語で祭りを説明したけれど、私以外の留学生は英語より日本語のほうが理解できていたので、説明を日本語に変えた。私にも、日本語聴解練習のチャンスだった!

府中駅と大国魂神社がつながる道を歩きながら、15人ぐらいずつの子供達が子供サイズのお神輿を運んでいるのを見ていた。お神輿を運んでいる子供達の各グループの法被に彼らの地域の名前が書いて

てあった。道の両側で多くの見物客が、子供のお神輿の行列の進行を見ていた。大国魂神社に近付けば近付くほど人が込んできた。

神社の中で、手水舎で手と口を清めてから、大人用のお神輿を見た。

その後は、神社の近くのビルで休憩し、全部の留学生グループが再び集まった。法被を着たままで写真を撮ったり、煎餅を食べたりした。

5月4日は偶然に私の誕生日であるために、ボランティアガイドが私に誕生日プレゼントをくださった。本当に有難く思った。

くらやみ祭りについて習って、日本の歴史的・文化的な資源の豊富さに感動させられたが、実はくらやみ祭りより感動させられたことがあった。私を一番感動させたのは府中市の観光ボランティアであった。皆さん退職後のボランティア活動として行っており、外国人留学生に日本の文化について教えるために時間をかけてくださった。このボランティア精神は日本の一番大切な資源だと言える。

# VOICE

## 5. 留学生の声

### 5-1 ふじのくに留学生ツアーの感想

#### 「おもてなしの心」

大学院修士1年

ブインデリゲル(モンゴル)

2月21日(金)朝8:30に東京を出発して、11:30に沼津駅に着きました。そして静岡の長興寺の松下宗柏さんのお陰で、「ふじのくに留学生ツアー」の二泊三日の旅行、見学が始まりました。

私は松浦氏の招待で、三島ボイスキューFMラジオ局に行って、30分の収録をさせて頂きました。三島の皆さんに自分の顔をあわせなくても、声で、日本に留学したこと、感じたこと、日本で学んだことについて、色々お話をさせて頂きました。本当に幸運でした。

収録の後は柿田川湧水公園に行って、地下から湧き出す水を知りました。それは、富士山から流れて

来た雪や雨の水が土の層に乗って、地下何十メートルから湧き出ていました。その水は静岡の人々をいろいろな形で幸せにしていることがわかり、自然ってすばらしいなということに改めて感じました。

その後は、バスで移動して、長興寺に到着。ここで、日本の伝統的な文化の一つである「茶道」を立派なお茶室で、立派な先生に教えて頂きながら、体験しました。

「茶道」は 450 年ぐらいの歴史を持つ意味深い日本の伝統的な文化の一つになって、人々を平和に、人々に対して敬意を表し、心を清めて、静寂にさせるということで茶道を体験しました。

その次は、もう一つ日本の伝統的な文化である「禅」について丁寧に説明して頂き、実際に体験させていただきました。「禅」というのは仏教の教えの一つであり、人々を体から心までに調べてくれることを初めて知りました。「一日一度は静かに坐って、身と呼吸と心を調べましょう」ということを、自分で体験して感じました。非常に大事だなと思いこれから続けようと思っています！

夕食は皆と自分のホームステイの方たちと一緒に日本の美味しい「ちゃんこ鍋」を頂きご馳走になりました。そして、ホームステイの溝田さんのお家に泊まらせていただきました。

お母さんと娘の沙織さんが英語専攻で英語先生をやっているようです。お父さんは単身で東京で仕事をやって週に一回帰ってくるようです。お家も立派できれいでした。娘さんと色々なお話が出来て楽しかったです。

夜お母さんがタオルからすべてを準備してくれました。日本人の暖かくてやさしいころを感じました。感動しました。

二日目の朝 7:30、お母さんと娘さんがぜひたくで豊富なおいしい朝食を作ってくれて幸せを感じ、もっと日本語勉強し、日本の文化を勉強して何らかの形で恩返ししたいと強く思いました。本当に感謝です。

そして、富士の宮の白糸の滝を見学しました。きれいで迫力がありました。日本の山の神様である富士山の神様の神社の「浅間神社」を参拝しました。この神社は富士山を身守っている神様をまつっている神社で非常に有名だそうです。そして、富士川楽座へ

移動してお土産を買い、ドームシアタープラネタリウムでパノラマ鑑賞して、平成 25 年 6 月に世界遺産に登録された「富士山」についてたくさんことを紹介して頂きました。

たとえば、日本一高い山である「富士山」は 10 万年前から火山が噴火してできた山で、最近の噴火したのは 300 年ぐらい前の江戸時代のことでした。富士山は歴史も古しい、四季によって景色も変わるので世界中の人々に大人気で、色んな作品にもなっているようです。そして、日本人は富士山に恵まれていることをわかり、感動しました。

その次は、沼津港ビューオに行って港を見て来て、夜ホームステイに戻りお母さんたちの美味しい夕食を頂きました。本当に美味しく幸せでした。

お母さん、お父さん沙織さんありがとうございました。この二日間の旅を通して日本の文化を体験しながら感動で幸せでした。日本人の心のやさしさ、思いやり、人々（相手）のことを大事する、細い人に対する真面目さ、心づかいなどを本当に自分が体験し実感して感じました。日本のやさしさ、親切で思いやりがある人々であることがもっと実感できました。嬉しかったです。幸せです。ありがたいです。感謝しています。

これからどこいっても日本人のこのすばらしさや高い国民性を伝えたいです。

本当にありがとうございました。楽しかったです。

(溝田お父さん、お母さんのお家で 2014.2.22(土)夜 23:05 記)

## 5-2 ホームステイで

### おばあちゃんに教わったこと

2013 年度留学生日本語教育センター学生  
Saisawat Samut トウーン (タイ)

3 月の終わりごろホームステイプログラムに参加させて頂きました。場所は外大から 5 分、期間は 5 日間でした。環境もあまり変わらなかったし、期間も若干短かったけれども、このプログラムから頂いた経験はいつでも忘れないと思います。

私のホストファミリーは秋山さんという一人暮らしのおばあちゃんです。「【おばあちゃん】と呼ばばいい」と私に言いました。おばあちゃんは府中の文化センタ

一に勤めていて、その子供達にそう呼ばれているらしいです。

おばあちゃんの家泊まったおかげで色々勉強になりました。おばあちゃんは料理が上手なので、ハンバーグ、ラーメン、チラシ寿司などの日本料理レシピを教えてくださいました。料理のみならず、他の文化も分かるようになりました。その例として、お箸のマナー、夕飯の後家族のみんなで茶の間でお茶でも飲みながらくつろぐ習慣、お風呂に入る文化などです。

文化だけでなくやはり日本語の勉強にもなりました。留学生日本語教育センター(JLC)を卒業したとしても分からない単語がもちろんまだ多くあります。「片栗粉」という言葉はおばあちゃんの家で習った単語の例の一つです。加えて、本の書き言葉ではなく、実際に使われている表現も勉強になったのです。

「多磨駅」、「外大周辺」などと言ったら、つまらなく見えるかも知れませんが、実はそうではないのです。むしろ、国際交流会館に住んでいた時より、もっとその辺をよく知るようになりました。

おばあちゃんに散歩について行ったときに行ったことがなかった公園にも行きました。おばあちゃんが勤めている文化センターは小学校だと誤解したこともありました。

その上、外大周辺だけでなく東京タワーにもおばあちゃんと一緒に観光に行きました。タワーの上で東京を観察しながら、同じ国の人または外国人同士でなく、年上の日本人から色々な場所の話の聞けることはなかなか体験できないことだと思いました。

このホームステイプログラムはたくさんのいい思い出を私に与えました。文化や日本語や場所の勉強だけでなく、誰かと絆で結ばれてとても嬉しいです。5日間は短かったくらい貴重な時間でした。

## Thank you!

### ありがとうございました!

# VOICE

## 6. 会員の声

### ジイジイのドイツ留学記(その1)

言語文化学部 ドイツ語専攻3年  
(ドイツ・ゲッティンゲン大学留学中)  
中村 皓一(留学生支援の会幹事)

2年前、弱冠(?)66歳にして外大の門をくぐり、当会に興味を持って活動に参画させていただくことになり、本学で学びかつ人と触れ合うことの楽しさや刺激は想像を超えるものがあった。そして昨年の秋、「まだ知らないこと、経験したことが無いことに挑戦したい」という願望の行き着く先としてなんと海外留学にまで心が動いてしまい、今回3月から交換留学生としてドイツ・ゲッティンゲン大学で1年間学ぶ機会をいただいた。

以前はこれほどまでの思い込みや行動力は無かったのであるが、人生の残り時間が徐々に少なくなってきたからであろうか、あるいは止めてくれる人がいないからであろうか、一旦思い込んだらそれを実行しないと納得できないようになってしまった。これも一つの“老化現象”かもしれないと自認している。因みに表題のジイジイは、3歳になる孫からの私への呼称である。

さて、本報告は正に“既に時宜を逸した学生”の留学記であり、またそもそも短期間の滞在で留学たるものの全容を語るはずもないので、いわゆる“知ったかぶり”をするつもりは全くなく、ただただ個人的な感想文として受け取っていただきたい。

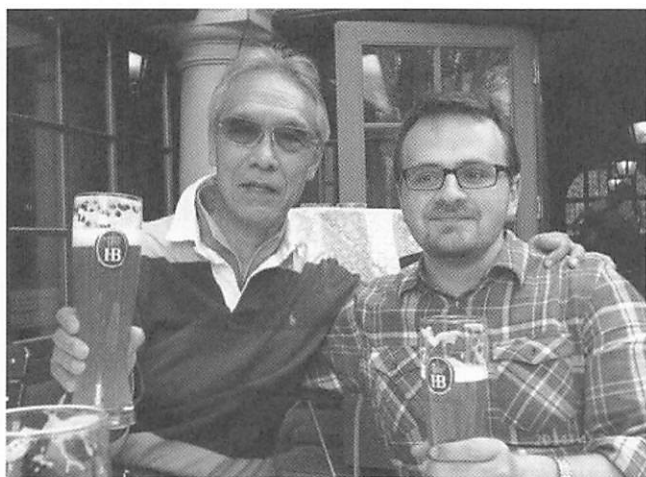
しかし編集担当から「今後、会員各位のお子様達が留学を志す場合の参考に資するように」との要請があったので、最後にまとめて触れることとしたい。

この文章を書いている日(5月18日)は日本を離れてちょうど2月半を経過した時点であり、生活上の不便や悩みは無くなって既に水平飛行状態に入っているが、この第1回の報告では海外生活や留学生としての活動を本格的に開始し始めた段階を中心に述べてみたい。まずは多少とも臨場感を味わっていただくため、日記からの抜粋をそのまま引用する。

3/3(月)朝5:40 自然に起床していよいよ出発だ。まさか2度と帰還できないとは思わないが、さすがに一年という期間は長く、自然と気持ちも揺らぐ。

3/13(水) 注文していたパソコンのアダプターを電器店に受け取りに行ったが、まだ来ていない! 「俺は月曜日に来たのに貰えなくて、木曜日にまた来たのにそれでも“分からない、知らない”なんて、一体何度通わせるんだ! 君の仲間が俺に約束したんだぞ!」とドイツ語で精いっぱい怒ってみせたが、どれくらい通じたかな…。

3/25(火) この3週間の授業はある意味では自分のドイツ語に対する自信を打ち砕いたとも言えるくらいに大変だった。もう少し自分でもできるつもりだったが、聞くことも話すこともどちらもまだまだだ。どうすればうまくなれるのだろうか。(以上、日記より)



(ルーマニアからの留学生とミュンヘンのビアガーデンにて)

3/10から28まで留学生用の特別ドイツ語クラスがあり、周囲はEU諸国からのベラベラの連中ばかり、そんな中で裁判所法廷での模擬裁判や記者会見をシナリオなしで演ずるなんて、日本語でもできないのにただただ唾然とするしかない授業であった。

4/22 から正式に夏学期がスタートしたが、ここではドイツ語の授業以外にそれぞれが属する専門領域の授業を自由に受講でき、私は中欧中世史の授業を数コマ受講している。講義は70%程度しか聞き取れないが、内容は涙が出るほど楽しい。

休日は留学生仲間と旅行することが多いが、4月には中国、韓国、ルーマニア、それに私日本という多国籍軍でミュンヘン近傍に一週間旅行してきた。同行した若人達は本当に暖かく親切にしてくれて、旅の中で

助け合ううちに最後は彼らとは「Meine Tochter!(私の娘よ!)」、「Mein Vater!(お父さん!)」とお互いに呼び合うほどになった。

また、誕生パーティー、寮での夕食への招待等には誘われたら必ず参加しているが、そこでは国籍などとは無関係な個人同士の世界を体験できる。

最後にこれから留学を考えるお子様へのご参考にと、私が今までに感じたポイントを列記し、初回の報告を終えたい。

1. 世界各国からの学生との交流を通じて自分自身でグローバリズムを実感することこそが留学の本質であろう。
2. そのためには、できるだけ当方から発信する度量とそれを可能とする教養とを身に付けておくことが重要である。
3. 語学力については、会話相手を積極的に見つけることが必須要件。私は最低1時間相手してくれるドイツ人3人とそれぞれ週に一回、夕方コーヒーやビールを飲みながらフリー会話をし、また留学生同士での会話も適宜実施している。
4. 留学は精神的に日本国内よりストレスがあるので、学業に苦しんだり悩んだりすることを極力避けるように、適宜自分のカリキュラムを思い切って組み替えることも必要であろう。

以上、紙面の制約で全く意を尽くせていない面もあるが、いずれ次回以降に触れることとしたい。

## REPORT

### 7. 奨学生の声

#### 奨学生に選ばれて

国際社会学部日本専攻1年

カッサーマー ムハンマド ウバーダ(シリア)

私は2012年9月に交換留学生として東京外国語大学にきました。来た当初、私の日本語能力は完璧からは程遠いレベルであることに気づき、大変な衝撃を受けました。そのため私は一生懸命日本語の力を東京外国語大学のもてで上達させました。



その時も私の母国であるシリアの情勢は悪化の一途を辿っていました。最初の予定では1年で留学を終わらせる予定でしたが、シリア情勢のため帰国が難しく、また日本で勉強を続けたいという思いも生まれ、一年過ぎてからも日本に残り勉強し東京外国語大学に入学しなおし、今も勉強を続けています。

入りなおした後、経済的な問題に直面しました。それは入学金や授業料といった勉強に必要なお金やまた生活費といった問題ですが、私の実家も送金できるような状態になく、必死で稼ぐバイト代も限られていて、途方に暮れていました。

その折に、留学生課から留学生支援会の奨学金の紹介を受け応募しました。その後有難いことに奨学金を頂けることになりました。

その奨学金のお金を使い、現在抱えている経済的な問題を減らすことができます。まず、その奨学金を用いて、入学金を払うつもりです。また、生活費の支えになると思います。この奨学金がなければ私はどうすることもできませんでした。本当に感謝しています。ありがとうございました。



(6月15日、留学生支援の会連絡室にて、中嶋会長から奨学生に、4月～6月分の奨学金が手渡されました。ウバーダさん(左)、ホ ホンジャさん(右))

## 奨学生となって

大学院国際協力専攻 修士課程2年  
ホ ホンジャ(中国(内モンゴル))

留学生支援の会の皆様、初めまして、私は中国内モンゴル出身の何宏霞(ほほんしゃ)と申します。博士前期課程国際協力コースの二年生です。

今回、私に留学生支援の会の奨学金をいただき、誠にありがとうございます。奨学金をいただいたおかげで、私の大学院の勉強はスムーズに進めるようになります。

2013年4月、私は夫と二人で同時に東京外国語大学大学院に入学しました。中国内モンゴル自治区における砂漠化環境教育開発を研究テーマとして取り組んでいます。

内モンゴル自治区では近年から過開墾、過放牧による砂漠化環境問題が深刻化し、地域の経済発展や人々の日常生活に悪影響を与えています。こうした状況で、内モンゴル地域の人々の環境意識を高めることは重視され、これに対する環境教育の開発は十分必要であります。日本のNGOは1980年代から内モンゴル自治区の各地域により砂漠化防止のため、植林や環境教育の方面で援助活動を行われてきました。

私は日本に留学してから日本人の環境意識の高いレベルに感動し、日本の環境教育を勉強しながら内モンゴルの環境教育開発を探り、故郷の砂漠化環境問題の解決に力を入れていきたいです。

私の経済的な状況は、親は年を取り、また病気にかかり、私の留学生活を支える経済的な余裕が無くなりましたため、私は夫と二人でアルバイトをしながら勉強を続けてきました。そして、2014年1月に長男が生まれました。赤ちゃんが生まれ、家族が増えて生活はもっと幸せを感じるようになりましたが、その一方で経済的に非常に厳しい状況に落ち込みました。

夫は勉強とバイトを両立して、一人のわずかな収入で二人の学業を続け、三人の生活を支えることになっていました。空き待ちの人数関係で、赤ちゃんは今まで認可保育園に入れなく、経済的な関係で認証保育園にも行けないことで、私は夫と交替で赤ちゃんの面倒を見ながら学校へ通っていますが、時間的に全然余裕がなく、特に修論の完成には十分な時間をつくらなければならないと思います。こうした厳しい状況で、私が留学生支援会の援助をいただけるようになって、本当に心より感謝しております。

奨学金をいただき、経済的に余裕を得て、私は勉強と子育てを両立し、修論に集中して卒業を目指して精一杯頑張っていきたいと思います。

新規加入者

■一般会員（平成26年2月14日～平成26年6月20日）

（敬称略）

阿相めぐみ	上野聡子	木下正次	佐藤陽香	舘輝仁	萩原礼	三井万季
栗生田杏奈	内小春	木村茂孝	佐藤博	舘林秀俊	橋本一男	皆上明夫
安岐隆良	内田博之	木村真悠子	佐藤モエ	田中浩太郎	長谷川友香	三宅由美
秋山瑤貴	内山美之	顧子謙	佐藤裕子	田中学	長谷川幸浩	三好泰子
浅田麻由	梅津武司	工藤健一	佐藤佳子	田林葉子	馬場愛	三輪喜良
安達佳生	江口美優	工藤万里子	澤伊津美	茅根孝雄	林雅子	棟方あさの
渥美宗三	榎本恵実	久保田亨	穴倉章浩	塚本俊	原礼実	村井峰夫
阿部薫	大久保圭夏	熊谷敏昭	鎮目美和	土田和希人	原崎範武	村上利信
阿部慎也	大迫愛歩	栗田茂伸	鎮目良子	勅使河原浩	原信也	村上直子
新井恵	大澤珠美	黒田和雄	篠田弘男	手嶋修一	原田苑子	森下貴史
荒木美乃里	太田百合子	香田瞳	柴田敏	手塚義人	原田裕樹	森田舞
荒武祐宏	押樋洋	古賀秀晴	柴田まり菜	寺田紀美子	原田史恵	森ななみ
有吉玲音	大野茂樹	国分高史	嶋崎理沙	常世貴子	原浩	八木はるか
安藤岳志	大野倅汰	小暮和明	島征吾	富山綾香	一ツ町清楓	安江義英
安藤種明	大橋かおり	輿石君子	清水康弘	豊田知子	樋山謙一郎	柳井治
飯石彩野	大和拓海	越塚美里	下遠航	内藤春義	平井薫	柳沢俊樹
飯田和宏	小笠原滋	小島紳一郎	庄司里美	内藤久	平田忠	山口剛
飯田舜祐	岡田景子	小菅祥嗣	神生基恵	長井雅史	平田梨花	山口七重
飯田浩稔	沖田和恵	小竹桜子	神保礼子	永井舞美	平山雄一郎	山崎加奈
五十嵐史	奥野公子	小谷栄一	杉野紗代	中里見香菜	福井照美	山下将明
池田正人	奥村郁海	後藤久美子	杉山茂	中里靖夫	福田収	山田一博
石井ともな	小倉義信	小林茉由	須佐尚子	中島克巳	福田雄介	山田真樹美
石川寛	表真央	小檜山智久	鈴木タリタ	中島啓光	福永一徳	山田雅弘
石川壽	香川真梨佳	小松俊哉	鈴木千博	長嶋幹男	藤澤秀彦	山本亨子
石塚久継	柿木浩典	小山祐二	鈴木康夫	仲谷航	藤野のぞみ	山本弘之
市川美喜子	角五圭子	近藤茜	鈴木悠以	永堀紗也香	藤森望	山森一幸
一ノ瀬恵	葛西浩一	今野秀樹	鈴木幸江	中村留美	船越慶市	湯浅正敏
市野貴則	加藤浩	齋藤昭彦	鷺見明里	中本正泰	古里和雄	横山儀八
伊藤颯希	金子純子	齋藤耕一	高桑美穂	行木彩花	古瀬瑠菜	吉川彰人
伊藤早苗	叶子佳	齋藤史織	高瀬美穂	成澤麻香	堀内樹一	吉崎晴香
伊藤泰広	仮屋歩	齋藤翔	高橋淳	成田恵美	堀下茜	吉田美恵
井上午朗	川井安行	齋藤春香	高橋真理子	成田夏那子	堀出恵美	吉田梨乃
猪股邦子	川口遥女	齋藤京	高松悦雄	西村卓也	本間流星	吉野彩葉
今井恵子	川瀬大	三枝寛尚	高本英明	西村理佳	馬内智美	渡辺佳耶
今井貴志	川満友梨映	榊原麻紀子	高柳祐太郎	西脇諒	牧裕志	渡辺淳也
今井恒正	韓美紀	坂本郁夫	高山淳	丹生由莉	松永昌人	渡邊博
今竹泰典	菊地文子	坂本竜也	高山淳一	二村学	松林正人	渡邊和子
今田新太郎	菊池理佳	佐久間浩之	田口啓子	丹羽三樹夫	松村穂菜実	渡部洋子
今原由衣那	北浦紀之	桜賢哲	竹重毅彦	根津千晶	松本真央子	鰐淵佳奈
入船佳樹	北村遥	佐々木一郎	竹林真須美	根本洋	松本祐輝	
岩岡俊	北山拓	佐々木智子	田澤好一	能丸芳幸	丸山千絵	
岩田京子	北山由紀野	佐藤昭美	田代智恵子	羽賀英昭	丸山裕之	

※異体字のために正しく表記されていない場合があります。

※万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。

その節は当会までお知らせくだされば幸いです。

ご入会、ご寄付、  
ありがとうございます

# ACTIVITIES

## 8. これからの活動

### 会員寄付者

■ 一般寄付(平成26年2月14日～5月31日)  
会津洋、朝倉雍子、池永郁夫、五十幡圭右、江川厚子、  
大山幸房、尾形厚志、尾崎芳江、神生基恵、瑞應寺  
(中島剣山)、松井清治、森健祐、山中明香里、山本葉、  
鷺澤祐子 (敬称略)

※万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節  
は、当会までお知らせくだされば幸いです。印刷できない外字等、  
ご了承ください。

## 平成26年度 会費納入のお願い 随時受付

6月20日現在  
会員数:1,130名

すべての活動は、皆様の年会費とご寄付で行  
われております。本年度会費を同封の振込用  
紙にてお振込くださいます様、お願い申しあ  
げます。

※ ひとりでも多くの方々の早期納入のご協力  
をお願い致します。

※ 振込用紙にメールアドレスをお書き添えいた  
だければ、今後、当会の各種イベントなど  
の情報をお届けしていきます。

一般会員:年会費 3,000円  
協賛会員:年会費 20,000円



1

8月1日(金)～3日(日)  
静岡県で2泊3日のホームステイ

日時 8月1日(金)～3日(日)  
募集人数 留学生15名(先着順)  
富士山麓ウォーキング、修善寺見学、座禅、温泉体  
験など楽しい企画が一杯です。  
参加費用:5,000円 +3,800円(往復バス代金)  
お申し込み:アゴラグローバル2階 留学生支援の会  
連絡室

2

秋期バザー開催  
9月30日(火)～10月1日(水)  
場所 国際交流会館2号館交流ホール

ご協力いただき、留学生に毎回大変好評いただい  
ております秋期(10月期)バザー開催に向けて、下記  
の要領にてバザー用品送付受付期日をご確認の上、  
ご準備、ご手配いただきたくお願いを申し上げます。

### バザー用品受付期間

9月22日(月)～9月29日(月)

### お送りいただきたい物品

- 各種辞書、日本文化・歴史に関する書籍、文学  
作品、日本語教育、日本語学習関連書籍など
- 台所用品(小型の鍋、フライパン、電気炊飯器、レ  
ンジ、トースターなど)

■ 日常生活用品(自転車、タオル、毛布、布団、食器、衣類、電気製品(一人で持ち運び可能なもの)、保存のきく食品など

※一人で持ち運びが不可能な大型電気製品については042-330-5183(梅田 火・水・金のみ)までご連絡をいただきたいと思います。

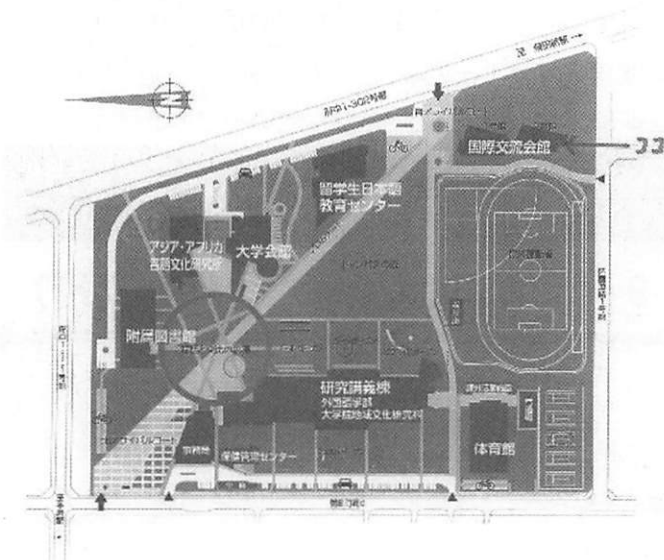
※衣類や布ものは、新品同様またクリーニング済のもの、できれば春・夏物を希望します。

■ 国際交流事業の一環としての「着物・着付け」用 男性羽織・袴一式、振袖、帯など

※ 古着可、ただし使用可能なもの

**送付先** 東京外国語大学留学生課気付  
東京外国語大学留学生支援の会  
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1  
TEL042-330-5183(電話にて直接のお問い合わせは火・水・金に梅田までご連絡ください。)

**送料** 宅急便等で品物をお送りいただく場合には、恐れ入りますが、従来通り送料のご負担をお願いいたします。お手数ですが「**午後便**」をご指定下さい。  
※平日の時間(12:00~16:00)は、連絡室が開いております。受付期間中の直接搬入も可能となります。下の地図の場所(国際交流会館)までお願いします。



※当日のお手伝い・参加可能な方は、当会または下記までご連絡下さい。

042-330-5183 (火、水、金のみ、梅田まで)

## 幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

平成26年4月13日(日)

平成26年5月17日(土)

平成26年6月15日(日)

## HOME VISIT & STAY

♪ ホームビジット、ホームステイ受け入れに関心のある方は是非、当会にお問い合わせ下さい。

首都圏などでのホームステイ受け入れに加えて、地方の方々のお申し出もお待ちしています。といたしますのは、留学生たちは、日本の地方の文化に触れ、生活してみたいという希望もまた多いからです。



<お問い合わせ先>

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1  
東京外国語大学 留学生課気付 (梅田、谷川)

TEL: 042-330-5183 / 5759

FAX: 042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

©Copyright 2014, TUFIS International Student Support Association



# 東京外国語大学 留学生支援の会

No.47  
年3回発行

Since 1999

## 会報

会員の皆様、ホームステイやバザーにご協力ありがとうございます。  
当号にも留学生から感謝の言葉が多数届いております。  
今年も「国際交流の夕べ」(12月12日開催)で留学生と交流しませんか。

Pick Up  
Event 2014

留学生支援の会の幹事になってくださる方はいらっしゃいませんか。  
興味のある方、幹事の役割につきまして当会までお電話でお問い合わせください。

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5183/5759 FAX 042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

## FOCUS

### 1. 巻頭言

## INSIDE

### 『「留学生支援の会」がここにはある』と いうこと

学務部留学生課長  
森 勇造

「留学生支援の会」の皆様におかれましては、日頃より留学生支援を通じ、留学生はもちろん、日本人学生を含む多くの学生に多大な支援や様々な機会の提供をいただいております。大変感謝しております。

私は、この度、2014年9月1日付をもちまして、学務部留学生課に課長として着任いたしました。微力ながら全力を尽くす所存でございますので、どうぞよろしく申し上げます。

着任後、あっという間に2か月が過ぎました。その間、日々悩ましい案件と格闘の中、9月下旬に本学は「スーパーグローバル大学創成支援」事業(以下「SGU」という)のタイプBに採択されました。

SGUは、世界レベルの教育研究を行うトップ大学(タイプA)や、先導的試行に挑戦し我が国の大学の国際化を牽引する大学(タイプB)など、徹底した国際化と大学改革を断行する大学を重点支援することによ

Page 1.	1. 巻頭言
Page 2.	2. ご挨拶
Page 3.	3. 活動報告
	3-1 歌舞伎鑑賞教室と懇親茶話会
	3-2 七夕茶会
	3-3 各国文化紹介 ～お茶とお菓子を通して
	3-4 国際理解教育
	3-5 秋期バザー
	3-6 華道教室
Page 9.	4. ホームビジット&ホームステイ
	4-1 ふじのくに留学生ツアー
	4-2 小樽ホームステイ
	4-3 関西ホームステイ
	4-4 松本ホームステイ (英文)
Page13.	5. 留学生の声 国際学会発表
Page14.	6. 会員の声 ジイジイのドイツ留学記(2)
Page16.	7. これからの活動 国際交流の夕べ

り、我が国の高等教育の国際競争力を強化することを目的として、文部科学省が公募・採択を行いました。タイプ A(トップ型)は、13 大学が、タイプ B(グローバル化牽引型)は、本学を含む 24 大学の計 37 大学が採択されております。

本学の SGU の 10 年間の計画には、留学生受入れ増及び派遣留学生増への取組、海外拠点の展開、留学生の多様な生活支援体制等、様々な方法でグローバル化を推進する構想が盛り込まれております。10 年後に受入れ留学生数を現状の約 2 倍にすることなどが目標のひとつとされていますので、今後、ますます留学生が増加していくこととなります。

留学生が増加することは大学がグローバル化を推進する上で重要な要素となりますが、留学生を増加させるということは、それだけ付随する業務や支援、資源が必要となることとなります。当面の課題としては、①教育体制の整備②宿舍の確保③生活支援体制の充実が考えられます。

これらの課題は、大学が対応できることと対応が困難なことに分けて考えると、①は大学で対応すべきことであり、②は大学でも検討するが、行政や民間の協力を得ながらの対応、③は大学だけでは相当困難な状況であり、様々な方々の協力が必要となるのが現状です。

留学生を担当する職員になると、必ずと言っていいほどに職務上の限界が多々あり、大変もどかしい思いをするもので、このことは、諸先輩方もよく述べられたことでした。そのような背景があり、本学の「留学生支援の会」が発足されたと聞いております。そして、このことは、支援を受ける留学生本人のみならず、我々職員にとっても大変有り難いことであったことは自明なことです。

「留学生支援の会」の会員数は1,125名(2014年11月10日現在)を誇り、バザーや入院見舞金、貸付事業、相談事業などを行う「生活支援事業」をはじめ、国際交流の夕べやホームステイなどを行う「友好親善事業」、日本文化の見学・体験、各国の文化紹介などを行う「相互理解事業」、本会報の作成などを行う「広報その他事業」など、その多彩で充実した事業メニューは素晴らしい企画力と実行力と感じます。

留学生に必要な支援が何かを考え、時代に合わせ

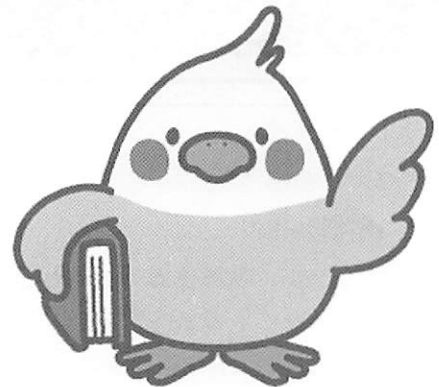
て変革し、発展してきた「留学生支援の会」がある本学はとて恵まれている大学であると同時に、大学の財産として共に連携・協力をして行く必要があります。

大学は小回りが利かない事も多々ありますが、そのような時こそ「留学生支援の会」をはじめ、留学生の支援組織と連携・協力し、留学生支援を総合的に行える体制を維持し続けることこそが、グローバル化の推進に資することとなり、全世界から更に多くの留学生を受入れられる大学となることが出来るでしょう。

今後とも、良きステークホルダーとして、連携・協力関係をお願いしたいと存じます。どうぞよろしくお願ひします。

<留学促進イメージキャラクター>

名前の由来は、「飛び立つ」と京王線最寄り駅「飛田給」にちなむ。



トビタ君

## 2. ご挨拶

### 新しい留学生課長をお迎えしました

会長 中嶋 洋子

実はこの4月以来空席だった留学生課の課長さんがやっと決まり、9月1日に赴任していらっしゃいました。森 勇造課長さんをここにご紹介します。

もともと留学生に大変理解があり、これまで留学生との深い関わりを持って仕事していらした方です。当

支援の会の活動にもきっと新しい刺激を与えてくださることと期待しています。

話は変わりますが、私の個人的なつぶやきをお聞かせください。

今朝、御嶽山噴火のニュースを知りました。地震や台風ほか、地球上の様々な自然が猛威を振るっていますね。私たちはそのことに対して、心の中にある種の大きな不安感と恐怖感を抱きつつ生活をしています。

そんな中で、毎日をどんな気持ちでどう過ごしたらいいのでしょうか？

皆様の考えをお聞きしたいところですが、私は結局のところ、平凡に静かに時を刻んでいく以外ないと思っています。

私は現在6歳と4か月の孫と同居していますから、まずは二人の孫が、事故がないよう元気で過ごすよう、面倒を見るという生活があります。

他には、もう16年前の退職後に始めた趣味のお琴の練習、同時期に始めた中国語の勉強、もちろん、この留学生支援の会の活動を活発化し、留学生のために努力を続けたいと思います。

さらに現在は、昨年亡くなった夫・中嶋嶺雄の著作や遺品の整理は一段落したものの、著作集の刊行、著作目録の制作など、中嶋ゼミのOBやOGの力を借りながら忙しく時を重ねています。

この間、1周忌や間もなく来る3周忌などやお盆、お彼岸などにはその都度、夫の故郷の松本まで出かけねばなりません。お盆やお彼岸などの伝統行事について、孫の質問にも応えねばならず。あー疲れた！

これが私の平凡に静かに過ごす内実ですが、それにしてはあまりにも慌ただしい日々です。

いったいどうしたらよいものか！？



# REPORT

## 3. 活動報告

### 3-1 歌舞伎鑑賞教室と懇親茶話会

日時:2014年6月8日(日)午後2時~4時30分

場所:国立劇場、ホテルグランドアーク半蔵門

参加者:留学生56名、日本人学生14名、幹事6名

日本の伝統芸能である歌舞伎に興味と関心を持ってもらいたくて毎年実施しています。そしてこの日本が世界に誇る伝統文化を後世に残し、留学生が自国に帰ってからも各国からその素晴らしさを発信し続けてもらいたい。

上演では、初心者、外国人の方にも楽しんで鑑賞してもらうための工夫がありました。特に、最初の「歌舞伎の見方」を説明する成駒屋、中村虎之介さんの演技はユーモアにあふれ、とても16歳とは思えない堂々とした立ち振る舞いでした。

そして「ぢいさん ばあさん」という演目は言葉や文化の違いを越えても十分理解できる心に沁みる夫婦愛の物語で、留学生達も口々に感動を漏らしていました。

それにしてもいつもより人数が多いということで、集合時の出席チェックや終了時のイヤホン回収にとっても時間がかかってしまいました。

受付時の作業を予め確認し、もっと手際よく進めることが課題として残りました。

また、参加者リストに間違いが多く、リストも受け付け順で作成されたため、名前をさがすのが大変だったので、国ごとにまとめるなどの工夫が必要と感じました。

ホテルでの交流会は日本人学生と留学生が適度に混ざって座ったので、とても良い交流の場となったようでした。

(幹事 竹内)



## 二度目の歌舞伎鑑賞とお茶会

言語文化学部 2 年  
グエン バン フック  
(ベトナム)

6月8日に留学生支援の会が開催する歌舞伎鑑賞会とお茶会に参加しました。プログラムは13時30分に国立劇場にて集合し、2時から4時半頃まで歌舞伎鑑賞、それからホテルで交流会を兼ねてのお茶会という流れでした。ちなみに今回は私の二度目の歌舞伎鑑賞です。前回途中で寝てしまったことのリベンジとして心待ちにしていました。

今回の歌舞伎は歌舞伎教室といって初心者向けに、はじめに舞台の説明が行われました。歌舞伎は日常で接する機会が少ないので、いろいろな舞台演出のわざや道具・音楽に感心しました。特に観客も参加できる内容も盛り込まれ、役者とは親しい気持ちにもなりました。

さて、歌舞伎のタイトルが、「ぢいさん ばあさん」でした。江戸の若い夫婦が家の前の小さな桜の木の下で別れ、夫は公用に出かけますが、なんと途中で不意に人を殺してしまい、流されます。妻のほうは貴族の女中となり、一年後の再会を約束した夫婦の別れは数十年後の再会となりました。

この時二人ともすでに年老いたじいさんとばあさんで、今や大きく育てた桜の木の下で会っても、お互いに気づかず、お辞儀で済ませます。しかし、たまたま

夫の癖である鼻に手をやる姿をじいさんがしているのをばあさんが見ました。やっとの再会を果たし、ふたりの長い年月抑えていた感情が一気に言葉、涙とともにあふれ出して、それからの付き合いも約束し、幕が閉じます。

感動物語ですね。演技中にはこのような感動の要素もあれば、コメディやシリアスな内容も含まれていました。舞台に設定された場面は三つで、また音声ガイドもあり、非常にわかりやすかったと思います。

歌舞伎の後は近くのホテルにてお茶会がありました。ケーキと紅茶やコーヒーを楽しみながら、各テーブルで学生同士が自由に会話し、交流をします。私は香港から来た留学生とロシア語専攻の日本の学生といろいろ話しました。ロシアや香港と中国の事情をいろいろ知れたことも良かったのですが、やはりホテルのきれいさにも目が移りました。

歌舞伎鑑賞会とお茶会のテーマはおそらく日本の文化の紹介です。これは歌舞伎鑑賞ではもちろん、私の場合、日本のホテルでのお茶会でも実現されたように思います。歌舞伎という伝統芸能を知り、さらに普段入る機会が少ないホテルで過ごす。この二つの体験が日本のすべてではなく、一面を私に教えてくれています。

なお、今回の企画をしてくださった留学生支援の会の方々に深く感謝したいと思います。今後もさらなる発展、さらなる国際交流を祈り、できる限り協力したいと考えております。





### 3-2 夏の文化交流 ～七夕茶会～

裏千家茶道倶楽部  
ラオス語専攻2年  
本間笑子

裏千家茶道倶楽部では毎年、7月7日の七夕にちなんで留学生を対象にしたお茶会「七夕茶会」を行っています。今年は7月1日(火)に行いました。

「七夕茶会」では通常の少し改まった茶会と違い、留学生の方たちを対象に気楽にお茶と日本文化を楽しんでもらうことを目的としています。今年は19名のお客様が来てくださいました。

当日は七夕にちなみ、お茶席に入る前後の時間を利用して短冊に願い事を書いていただきました。この短冊は部員がとってきた笹に飾りました。他にも共に折り紙をしたり茶道体験も行ったりして留学生との交流を深め、夏の日本文化に触れられるよう工夫しました。特に茶道体験の方は、留学生の方から「私も茶道をやりたい」という感想をもらえました。

また、七夕茶会でのお点前は夏ならではの「立礼(りゅうれい)」という形をとりました。立礼では、亭主、半東、お客様たち全員が椅子に座ります。正座をしないということで、正座に慣れていない留学生の方にも茶道を楽しんでいただけるように、このお点前を選びました。お菓子は夏らしく水饅頭を、お花はトルコキキョウを用意しました。お茶席では茶会ならではの緊張感のある雰囲気を残しつつも、お茶とお菓子、部員とお客様との会話もあって和やかな雰囲気で楽しむことができましたと思います。

そして七夕茶会のもう一つの名物は夏の風物詩、浴衣です。多くの部員たちが浴衣を着て、留学生の方たちにも浴衣体験をしていただきました。多くの留学生の方が浴衣体験を楽しんでくださったようです。色とりどりの浴衣を着た人たちが日本の伝統文化に興じる様子は本当に華やいでいました。

七夕茶会後に留学生の皆さまに感想をもらっております。浴衣や茶道の体験にとっても喜んでくださり、お茶とお菓子も美味しかったとのお声を受け取りました。また「日本の文化を体験できてよかった」、「茶道に興味をもった」などの声をもらって、日本の伝統文化にも

興味を持ってもらえたと思います。お茶会を初めて経験されるお客様が多い中、「良い思い出になった」「楽しかった」といってくれたので、おもてなしする側としてこれほどの喜びはありません。

この「七夕茶会」を通じて日本文化や茶道の楽しさなどを知っていただければ幸いです。また最後になりましたが、この度の七夕茶会に際しましてご協力くださった留学生支援の会の皆さま、本当にありがとうございました。



### 3-3 各国文化紹介—お茶とお菓子を通して

日時：2014年7月2日(水) 11時50分～14時

会場：アゴラ・グローバル1階

参加国：メキシコ・インドネシア・アフリカ地域(ガーナ・ウガンダ)

留学生支援の会では2005年から毎年2回、留学生による各国文化紹介のイベントを実施してきました。今年度の1回目を実施しました。内容は、4か国の自慢等の紹介(約5分間のプレゼンテーション)と、自国のお料理・飲み物の試食を通して留学生と日本人学生の交流を図ることで、メニューは次の通りです。

○メキシコ：ガガモーレ(アボガドディップ)、アロース、コン、レチェ (ライスプディングに似たスイーツ)、パイナップルドリンク

○インドネシア：ソトアヤン (米粉のスープ)

○アフリカ地域：ジョロフォライス 飲み物：チョコレートドリンク(ミロ)

参加者は 200 人程度でいつもより多かったです。大学の広報に載せて頂いたこと、留学生との交流会で広めてもらえたことが大きかったと思います。

プレゼンの途中で試食を始めたために、会場がざわついてしまい、4 か国目のプレゼンが聞き取り難くなったことは残念でした。前回と違ってお寿司、サンドイッチ等は完食でした。(幹事 竹内)

## メキシコの紹介

研究生  
ヴィクトル・マヌエル・エルナンデス  
(メキシコ)

7月2日、グローバル・アゴラで留学生の国際イベントを行いました。このイベントで四つの国の留学生は、自国の文化について発表しました。私たち、メキシコのフェルナンデス・エリカとエルナンデス・ヴィクトルは、メキシコの文化と料理を紹介しました。留学生課の梅田さんがこのイベントに誘ってくれました。また、料理の準備をするために、二人のボランティア、河野さんと井上さんが手伝ってくれました。



私たち4人、メキシコチームは二つの伝統的な料理を作りました。メニューは「グアカモレ」というアボカドソース、「米と牛乳」というデザート、また、パイナップルの飲み物でした。イベントの日にメキシコチームは最初に発表しました。エリカとヴィクトルは、概観的にメキシコの地理、植物、動物、有名な文明のピラミッド、旗の意味、料理を紹介しました。

このイベントで皆は多文化の習慣を学んで、世界中の友達と遊びました。この経験で日本語の勉強によって、世界を知ることができることがわかりました。

## 3-4 国際理解教育

### 東京都町田市立真光寺中学校の 国際理解教育への留学生派遣

日時：2013年7月5日(土)

参加留学生：3名(韓国、中国、ベトナム)

内容：中学1年生を対象に自国の紹介

7月5日、町田市立真光寺中学校の「国際交流の日」行事に伺いました。

参加した留学生は韓国のキムさん、中国のヨウさん、ベトナムのランさんです。「アジアの国を知ろう」をテーマとする授業には、私たちのほか本校の国際理解教育サークルや国士舘大学、国境なき子供たち、JICAなど様々な団体が参加していました。

3名は1年生の分科会で、1人30分程度の発表を行いました。自己紹介のあと、キムさんは、韓国の食文化の紹介をし、簡単な韓国語を教え、最後に韓国版あっちむいてホイで遊びました。

ヨウさんは、出身地河南省の少林寺の紹介と、中国語の挨拶と単語などを教え、最後は野菜の名前を使ったゲームで生徒さんととても盛り上がりました。

ランさんは、パワーポイントで国紹介をし、持参していたアオザイを披露してくれました。始まる前は3名ともとても緊張していましたが、発表は堂々としたものでした。終了後はまた機会があれば参加したいですとチャームな笑顔で話してくれました。

(幹事協力者 利光)



今秋も掲示やオリエンテーションでの説明、チューターや先輩からの伝言もあってか、留学生が2日間で200人ほど参加しました。

今回も、原則として新品の電気製品は1,000円位、寝具の新品は500円位、その他はみな100円以下、書籍は無料で留学生に渡しました。参加した留学生たちは、新しい生活を始めるのに必要なものが、バザーでそろえられることがとても嬉しいと、色々選んで、喜んで持ち帰っていました。

毎年、電気製品、寝具などは真っ先に予約済みになりますが、これから着られる衣類、靴、鞆なども、自分に似合うものをそれぞれ選んで持っていきます。書籍類は、辞書、教材、漫画、児童文学などが早くなりなりました。

いつもの事ですが、喜んでいる留学生の顔を見ると、支援の会の担当者として、役に立てて良かった、皆様のご協力のおかげ、と疲れなど吹き飛んでしまいます。

今回も、お皿やコップ、台所用品、衣類、書籍など残った物は、次回のバザーに回すことに致します。

バザーの収益金は、93,000円でした。

いつもながら毎回、送料もいとわず、様々な品物を提供して下さいました会員の皆様には、留学生ともども心から感謝申し上げます。

(幹事 梅田)



(↑たくさん品が集まり、熱心に手にとる留学生)

### 3-5 秋期バザー

#### 2014年秋期バザーへのご協力 ありがとうございました

東京外国語大学留学生支援の会

この秋には、約150名の留学生が様々な国から入学してきました。来日早々、9月26日に入学式とオリエンテーションが行われました。バザーもいつもより早く、新学期開始直前の9月30日と10月1日の2日間、国際交流会館2号館の交流ホールで開催しました。

今回も多くの会員、大学関係者、近隣の方々が多種多様な品物を送って下さいました。

一番多かったのは寝具類、衣類で、タオル、文房具、靴、着物、机、本箱、台所用品、食料品なども沢山ありました。電気製品は、皆が欲しがる電気釜がなく、電子レンジ、アイロン、洗濯機、冷蔵庫、自転車は数点ずつでしたので、くじ引きで受け取る人を決めました。

今回も書籍は少なかったです。

## バザーで感じた暖かさ

外国人研究者  
孫 楊  
(中国)

2014年9月30日～10月1日に、留学生向けのバザーが国際交流会館2号館ホールで開催された。会場には、ボランティアの皆様が寄付してくれた布団、食器、服、テーブル、電化製品などの生活用品がずらりと並べられており、その開催日はちょうど秋学期の始まりに合わせてくれたものだった。

東京外国語大学は、秋学期も世界の国々から特別聴講生や外国人研究者などの多数の留学生を迎えている。筆者もその中の一員である。

留学生は日本に来る際、生活に使うすべての物を持って来ることはできない。為替などの原因で生活用品を全部揃えるのは大変なことなのである。また、東京の東西南北さえ見分けることができないばかりか、留学生の一部は日本語も十分にマスターしていないのが現状である。そんな中で、ボランティアの皆様により開かれたバザーは、留学生の異国での生活スタートの大きな支えになった。

バザーがオープンする前から、玄関の前はすでに長蛇の列になった。オープンされるや、留学生たちは次から次へと自分の生活必需品を選び、先を争って購入していた。

一日目に、山のように積まれていた布団や、並べてあった大小各種類の鍋、食器は、あっという間に売り切れてしまった。また、留学生が物選びに悩んだりしている際、ボランティアの方々が熱心に相談に応じ、適切なアドバイスをしてくれたおかげで、留学生たちもそれぞれ自分なりに満足していたようである。

先日、ある留学生と一緒に教室に行く途中に交わした会話である。

「最近ちょっと寒いよね。」

「そうよね。自分の国はそんなに寒くないから、厚い服はあまり持ってないし。ちょうどこの前のバザーでこの厚い服をゲットしたんです。そうじゃないと・・・。」

「私も買ったのよ。本当に助かったわ。そのバザーは・・・。」

バザーは留学生たちに生活用品を提供するばかりでなく、慣れない生活への心細さや、今後の研究や学習などへ、安堵感と勇気を与えてくれた。おかげで、夜は暖かく眠れ、昼間も精力が全身にみなぎり勉強に励むことができた。

異国で生活し勉強する私たち留学生に「あなたは一人ぼっちではないよ。応援しているよ」という日本の皆様の優しい気持ちが伝わってきた。バザーを運営してくれたボランティアの皆様の笑顔に、暖かさを感じている留学生も少なくないだろう。筆者もバザー会場に入った瞬間、持っていた淋しさや心細さなどが跡形もなく消え去ってしまっていた。バザーを利用された留学生たちもきっと同じ心境だったと確信している。

ボランティアの皆様が開催してくれたバザーは、留学生に安心して生活できる不可欠な物の提供ばかりでなく、日本で成長する精神的糧にもなった。筆者も多くの留学生と同様、肌で感じた日本の皆様の暖かさを、帰国後、同僚や学生の皆さんに伝え、恩返しのもりで日本語教育に全力を尽くす所存である。

## 3-6 華道教室

### 留学生支援の会『華道教室』講師として

池坊華道会中央委員  
金盛春風

日本を代表する伝統文化の一つであるいけばな！平成24年池坊の挿花の記録が文献に記されてから550年を迎えました。

現代社会はとにかく便利で効率的なもの、経済性の高いものがよしとされる風潮ですが、こういう時代こそ、伝統文化にこだわり、伝統文化に生きる価値が問われているといっても過言ではないと思います。

生花は「心の鏡」とよく言われています。生ける人の気持ち、花に対する感じ方すべてが生花に反映されると思います。心楽しければ生花にも楽しさが現れます。心が元気なら、生け花も生き生きとした形になります。

月2回の活動の中とりわけ印象的だった出来事は、



用意した杯数より多くの人達がいらして下さった時の事です。生花が足りないことを知り「大丈夫シェアします」と言って2～3人が一組になり、一つの花器で作品を生けあげ、実に楽しそうでした。全員の作品が完成した時に撮った写真は、こぼれるばかりの笑顔でした。



「いけばな教室」には、これまでに隣国中国を始め、韓国、台湾、ウズベキスタン、ロシア、オーストラリアなど実に20数ヶ国の留学生が訪れました。日本語の習得、日本文化の体験等それぞれが様々な思い、目的を胸に抱いて海を渡っていらした事と思います。

テロや暴力が繰り返されている今、恐怖や不安に日々おびえている人々も少なくありません。そうした世界の中での留学生達との出会いは、本当に貴重なものです。

日本の四季の移り変わりから、一枝の、又一輪の花の美しさ、いとおしさを通して、生花の素晴らしさを一人でも多くの方々に知って頂く事が、留学生支援の一助になれば幸いです。

## 留学生支援

会員の皆様ひとりひとりが  
留学生の笑顔をつくります！

# EXPERIENCE

## 4. ホームビジット&ホームステイ

### たくさんの受け入れ、ありがとうございました

今年の夏休みは、留学生支援の会会員のお宅(20家庭)に大勢の留学生を受け入れていただき、ありがとうございました。

北海道6人(小樽、旭川)、新潟県2人(長岡)、長野県1人(松本)、群馬県2人(高崎)、千葉県1人、東京都6人、茨城県6人(筑波)、静岡県19人(沼津、伊豆)、大阪府3人の計48人もの留学生が、多くの新しい体験をし、充実した日々を過ごしてきました。

以下にホームステイを通じて感じた留学生たちの沢山の思いの詰まった感想文と、受け容れたご家庭から寄せていただいたお手紙を掲載いたします。

もしも、お読みいただいて、この冬休みに、留学生を受け容れて下さるご家庭がありましたら、留学生支援の会までぜひ御連絡下さい。

(幹事 梅田)

### 4-1 ふじのくに留学生ツアー

#### 富士山麓や駿河湾をめぐるツアー 留学生18人が参加して開催

静岡県沼津市などの有志でつくる「ふじのくに留学生支援の会」(松下宗柏代表)が、8月1日(金)～3日(日)に「ふじのくに留学生ツアー」を実施しました。

8月1日(金)

沼津駅北口集合、マイクロバスにて移動

アモールエテルノ・リオホテルにて昼食

三島「せせらぎウオーク」楽寿園駐車場下車

源平川～白滝公園～楽寿園散策

長興寺に着いてお抹茶を一服

各ホストファミリーの乗用車にて、第2東名SAへ

駿河湾の夜景を楽しみながら各自夕食、自由行動

各ホストファミリーへ

8月2日(土)

長興寺に集合

田貫湖 散策

富士朝霧高原・もちや着

餅つき、ソーメン流しの昼食、休憩



白糸の滝

「富士川楽座」ショッピング、プラネタリウムなど

長興寺で夕食(海鮮丼、または天ぷら丼をチョイス)

花火大会(原の夏祭り)見物

各ホストファミリーへ

8月3日(日)

座禅会

長興寺に集合

沼津港展望水門「びゅうお」

三津浜海岸・長浜城跡(駿河湾、海越しの富士山)

伊豆長岡温泉・ホテル天坊、バイキング昼食、

沼津駅北口 着

新宿行き高速バス出発、帰路へ

## ふじのくにホームステイ ホスト報告

会員 鈴木利子

ふじのくに留学生ツアーも今回で4回目、最初は戸惑いながらもアジアの希望あふれる若者達と2泊3日の短い時間ですが留学生と過ごす事に私達は大きな喜びを感じ、ほんの少しでも帰国後の日本との友好の橋渡しになってくれたらと願っています。子や孫の世代に親日家が一人でも増えて欲しいですね。

今年3月に松下さんや知人に勧められベトナムに旅行しました。仏教国と云う事もあり穏やかな人間性、

経済成長著しいアジアの熱気、植民地時代の世界遺産の建造物等と、とても素晴らしい印象を受けました。

そして今回グエン・バン・フック君という可愛い綺麗な瞳の男の子が来てくれました。御両親がベトナム難民、御爺さんはハノイ在住でベトナム戦争で勲章を三つもらったという話を聞き、私達が若い頃連日のように報道されたベトナム戦争の記憶が蘇りました。アメリカとの悲惨な戦争をへて、よくぞここまで復興したものだ、感慨深いものがありました。

今回は一人なので、ゆっくり入浴しなさいというと40分近く御風呂にいました。中国語を専攻しているがイギリスにも留学したい事、六本木ヒルズでガイドのアルバイトをしている事、勉強が大事と育ててくれた御爺さんの話などとても楽しいひと時でした。

将来日系企業への就職を希望しているようです。そこで給料は高いけれど仕事が大変ハードなので、まだまだ成長するグエン君はまずは体を鍛えて丈夫な体をつくるようアドバイスしました。将来、日本とベトナム、そして世界で活躍して欲しいと願っております。

## 初めてのホームステイ in 沼津

大学院修士課程PCS専攻

エファ・パトリック

(ガーナ)

私は大学のプログラムで静岡県のお寺に二泊三日でホームステイするという体験をすることができました。

私にとって、来日依頼、東京以外の場所へ行く事は初めての経験でしたので何もかもが新鮮でした。

まず、行きのバスから見えた自然豊かな景色に驚きました。そこは東京の大都会とは違い、同じ日本でも場所が違うだけでこんなにも変わるのかと驚き、静岡の素晴らしい自然に感動しました。そしてまた、私の母国ガーナを思い出しました。

静岡に到着後は、見るもの、触れるもの、食べるもの、会う人、全てが新鮮で、私にとって大変貴重な経験となりました。一日目と二日目は様々な場所へ観光に連れて行っていただき、素晴らしい景色や料理を堪能することができました。中でも、間近で見た富士山と花火には本当に感動しました。普段、電車の中から何

気なく見る富士山、夏になるとあらゆる場所で行われている花火大会を遠くから何となく見ていただけの花火、どちらも私が今まで見たものとは全く違い、東京にはそれ程気にもとめなかった日本の素晴らしさに改めて気付く事が出来ました。

そして、最終日には朝から座禅を体験させていただきました。生まれて初めての座禅はとても難しかったけれど、大変勉強になりました。また、座禅という仏教の修行法を少しは理解することが出来ました。私も日頃、悩んだり、怒ったり、迷ったり、様々な感情を持ち、時には自己中心的な考えをしてしまう事があります。これからは、そんな時、座禅を組んで心を落ち着けてみようと思います。

最後になりましたが、私にとって今回最も良かった事はホストファミリーに会え、過ごせた事です。私のホームステイ先はお寺でした。皆さん本当に親切にしてください、お寺での生活の様子や、仏教のこと、日本のこと、本当に様々なことを教えてくださいました。たくさんの新たな出会いもありました。太郎君とこはるちゃんという可愛い友達も出来ました。

私にとって、この三日間の体験は私の心に残る大切な宝物になりました。私は今回の経験を一生忘れません。皆さん本当にありがとうございました。

## ホームステイをして考えたこと

大学院修士課程 1年  
チン ヨウ  
(中国)

「百聞は一見に如かず」の言葉通り、実際にこの目で見た日本は、これまで「第三者」から聞いていた日本についての認識とは全く異なっていました、と日本に留学している私は、常に中国の家族や友人などに、感嘆して伝えています。

8月1日から3日まで「ふじのくに留学生ツアー」を通じ、静岡県・沼津市の長興寺にホームステイさせて頂きました。

私を受け入れたホームステイ先が「長興寺」です。英語でいえば「Japanese Temple」です。

やや不安の気持ちでありながら、新宿駅ですっと待

っていてくれた梅田さんからチケットを頂き、沼津市行きのバスに乗りました。初めてのホームステイですのでドキドキしました。

「沼津、沼津に到着・・・」と運転手さんからのお知らせでした。遠くからも見えたバス停にじっと立っているお二人は、前に立っているのが長興寺の住職・松下宗柏さん、後ろがホストファミリーの野口さんだということを知りました。

バス停が小さく、昼間なのに、通行人も僅かで、見わたしても年配の方が圧倒的に多い。そこから、日本の高齢化問題の厳しさを再び実感しました。特に、色々な観光スポットを案内して頂いた時にそう感じました。

観光スポットといえば、「白糸の滝」、「田貫湖」、「びゅうお」、「原・浮島ふるさと夏祭り花火大会」などなどありますが、三日間にすべて回ることは不可能です。とはいうもののホストファミリーたちの限りのある時間内にたくさんのところを見てほしいという気持ちに気付きました。改めてここで感謝します。静岡県の魅力を十分味わえ、また行きたいという気持ちが生まれました。

途中にも、日本文化の茶道を体験させていただいたり、「Voice cue」という静岡県のラジオ番組に出演させていただいたり、『静岡時代』という静岡県内の大学生が作っている雑誌(毎号1万部発行)の編集部の役員たちと交流したりしました。非常に刺激をうけ、勉強にもなりました。

また、毎朝目覚めたらもう朝ごはん、まるで実家のようになると錯覚もしました。

今回のホストファミリーの方々との接触により、「痒い所に手が届く」、「おもてなし」、「大和撫子」という日本式性格をより深く理解できました。

## 4-2 小樽ホームステイ

二度目のホスト役を終えて

小樽市在住会員 望月征美

当地小樽も数日間雨が続いた後、空の色が急に秋めいて来ました。

さて、二度目のホスト役を終えた所感、今後に向けての提案などお送り致します。

まず、6泊7日が適切な滞在期間なのか、余り深く考えもせずに、昨年とほぼ同じ内容でお引受けしたものの、やはり毎日のスケジュールを駆け足でこなすのが精一杯でした。今回は、昨年の訪問箇所プラス最終日に小樽水族館を訪問し、出発間際まで動き回っていた次第です。

滞在中に、小生抜きで自由に街を散策したり、買い物する時間、或いは、何もしない時間があっても良いのかも知れません。そのためにあと2~3泊は必要かも知れません。

滞在時期について、小樽は7月後半がベストのようです。全市を挙げて開催する小樽潮まつりは通常毎年7月最終金~日曜日、市内主要神社の祭礼も7月末迄にあらかた終了します。昨年開園と同時に話題となった春香山ユリ園の見頃は7月中~下旬です。

食事については、十人十色の要求や好みがあり、二人が同時に満足出来るメニューや食事処の選択が意外と困難です。

例えば、一人が生魚不可の場合、市内に数多くある小樽名物の寿司専門店にご案内出来なくなり、実に残念に思います。

年金暮らしの独居爺に出来ることは知れていますが、今後とも体力の許す限りお引き受けしたいです。

半世紀も若い世代とたまに接することは、ボケ防止にもなりますし。

## 北海道大学を見学できて嬉しかった

留学生日本語教育センター 留学生  
Nguyen Hoai Thu  
(ベトナム)

8月の初旬に北海道の小樽という小さな町でホームステイした。ホストの望月さんのお宅に住まわせてもらい、小樽、または北海道の綺麗などところを見物した。

しかし、私の最初の印象はそのところではなくて、望月さんのお宅である。この家は私が鳥かごの形をしているとおもったが、本当はポンキンの形で、回りの家と比べると、非常に目立っていた。そして、家の中に

はなんでもあり、小樽の気温も30度以下で、東京よりずっと涼しかったので、エアコンが必要ではなかった。

望月さんは私たちを小樽の水族館、北海道ワインショップ、札幌の北海道大学、余市のニッカウキスキー会社などの有名なところへ連れて行ってくれた。結構北海道のワインを色々な種類を飲むことができた。

それに、私は来年大学に入るつもりなので、北海道大学を見学できて、とても嬉しかった。望月さんも私たちに食事を作ってください、他にすし・中華レストランなども紹介して下さい。夜に時々望月さんの大好きなクラシックミュージックを聞いたり、テレビ番組を見たり、運動したりした。

ちょっと残念なことがあった。それは、望月さんは英語が上手すぎて、私たちはほとんど英語でしゃべったから、日本語はあまり練習できなかった。しかし、このホームステイはいろいろな所へ行って、いい思い出になった。

## 小樽での素晴らしい一週間のホームステイ

留学生日本語教育センター 留学生  
ダニエラ ディニゾ パラディノ  
(ブラジル)

日本へ来る前に、先輩から面白い経験の話を色々聞いていて、望月さんの家にホームステイに行ったことはその中に入っていた。先輩たちは望月さんや小樽についていいことだけ言っていたので、「私もそれをやってみたい」と思った。そのため、夏休みにそのホームステイプログラムを選んだ。

望月さんはホームステイの間、ずっととても親切にしてくれた。私とスーさんを色々な所へ連れて行ってくれた。その中で私が一番好きなのは札幌である。小樽も、札幌のように、とてもきれいな町であるが、札幌は私の町、サン・パウロと少し似ていた。

スーさんは日本史に興味があるので、札幌で北海道大学や徳川美術館展へも車で案内してくれた。とても面白くて楽しい一日であった。

小樽では、天狗山とか、小樽港とか、ゆり園とか、素晴らしい所へいろいろ案内してくれた。そして、私たちは、美味しい料理を作ってあげた。

もっとも面白かったのは、望月さんの話。望月さん



から、色々な国や、日本の各地について、話を聞かせてもらった。歴史とか、音楽とか、地理とか、どの題についても面白い話のできたので、私たちは日本や世界について習うことができた。

望月さんと日本語を使ってたくさん話したかったが、望月さんは英語がとても上手なので、英語を使って私たちに話した。それにしても、この一週間は素晴らしかったと思う。その経験を今でもとても大切にしている。

### 4-3 関西ホームステイ

高野山で仏教聖地のおごそかな雰囲気味わう

大学院修士課程1年  
ナザランカ・カチャリーナ  
(ベラルーシ)

9月の26日～28日のホームステイはとても楽しく、いい体験になりました。

26日の朝、京都駅に着くと藤岡さんご夫婦が迎えに来てくださいました。3日間はずっとご夫婦の車に乗せていただき、一緒に様々なところを見ることができました。

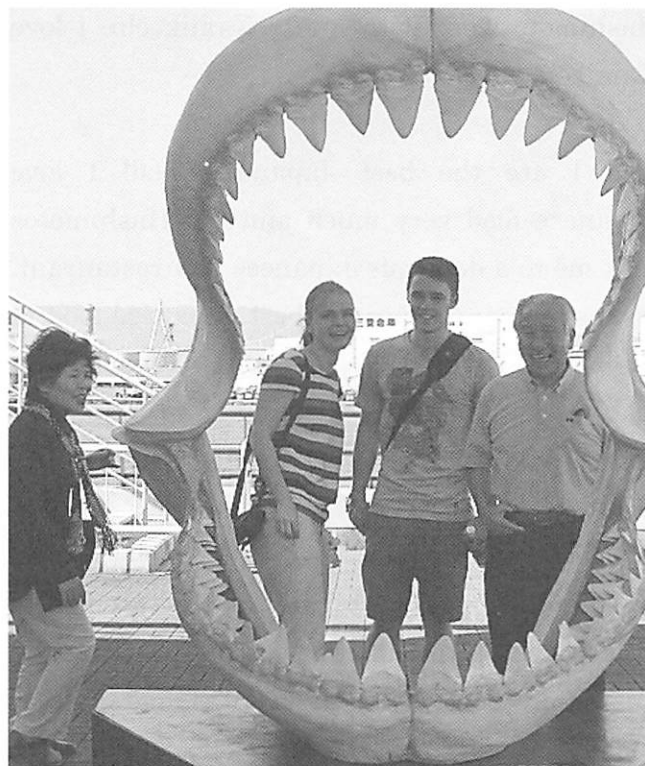
最初の日は平等院を見学し、奈良に行きました。奈良で大仏や鹿の数に驚き、奈良公園を散歩しました。ランチでうどんを食べ、法隆寺が閉まっていたため、寺の外見を見てから、大阪に移動しました。そこで素敵なレストランでディナーを食べました。



ご夫婦の家に泊めていただき、とても快適でした。朝ごはんも藤岡夫人が作ってくださり、土曜日の朝は洋風、日曜日の朝は和風で、ホテルや旅館などで味わえない家庭料理の豊かでもとても美味しいご飯でした。

二日目、主に和歌山県を回りました。高野山では味わったことがない、仏教聖地の独特でおごそかな雰囲気を楽しめました。釜飯のランチを食べ、和歌山県のドライブを続けました。海や山の景色が随分見ることができました。それに醤油を昔から作っている場所を訪問したので、醤油の作り方について知識が増えました。

三日目、大阪を主に見物しました。長い時間をかけて海遊館で華やかな魚、クラゲなどを見ました。ランチを食べ、大阪城に移動しました。そこで2時間もいましたが、閉まる時間までに全部見ることができませんでした。ぜひ今度チャンスがあるときゆっくり見物を続けたい気持ちがあります。



その後、難波でたこ焼きを食べ、大阪駅まで車で案内していただきました。別れはもちろんとても寂しかったのですが、充実した三日間の満足感を心に持ちながら東京に帰りました。

このホームステイの有り難い経験を可能にしてくださった藤岡さん、梅田さんに心から感謝いたします。

ご意見、感想など、会報への  
**投稿募集** どんどん  
お寄せ下さい

#### 4-4 松本ホームステイ

### Home Stay at Matsumoto

Johanna Stoll  
from Germany

Thank you so much for organizing the homestay in Matsumoto for me. It was wonderful! I had a very good time together with the Hashimotos.

They are very very nice people and I enjoyed the homestay very much. I saw Matsumoto Castle, a Wasabi-Farm, a Glass-Museum and Mrs. Hashimoto went with me to Kamikochi. I love Kamikochi.

And I ate the best Japanese food! I love Japanese food very much and the Hashimotos took me to a delicious Japanese fish restaurant. It was amazing. I ate the best Japanese food in the world, I think! :) I enjoyed it so much! And also Hashimoto-sans cooking and Japanese style breakfast was "totemo oishii"!!!! :)

What I enjoyed most was talking to Mrs. Hashimoto about many different topics, cultural differences, intercultural communication and miscommunication ... All in all, I had a great time!

I think the most impressive place for me was Kamikochi. It is just a nice and peaceful place and after being up there, we had a footbath in a hot spring, which was totally relaxing!

The second most amazing thing was the Japanese food I got to try. Fresh vegetables, sashimi, sushi, fresh fruit and the best soba I have ever eaten!

I am very sad that I have to leave Japan on Monday. Thank you so much for having me at TUFS and helping me to have such a great time here!

I wish you all the best and send you many greetings.

## VOICE

### 5. 留学生の声

#### 国際学会発表について報告書

博士後期課程 3年  
テッテツヌティ  
(ミャンマー)

2014年8月1日から8月4日までシンガポールに行われた国際ビルマ研究大会「International Burma Studies Conference2014」に参加しました。この研究大会は Institute of Southeast Asian Studies (ISEAS)、National University of Singapore Faculty of Arts & Social Sciences と National University of Singapore (Center for Asian Legal Studies (CALs)) が主催とし、The Asia Foundation、Yoma Strategic Holdings Co.Ltdなどがスポンサーなり開催されました。この国際研究大会はアメリカ、Northern Illinois University にある The Burma Studies Foundation が主な運営局となり、2000年から2年に一回 ISEAS と連携のある研究機関で行われていました。2012年は Northern Illinois University で行われ、2014年は Pan Pacific Hotel (Singapore) で行われました。

私はこの研究大会に参加するため東京外国語大学留学生支援の会から5万円の助成金をいただきました。国際学会で発表するための原稿を6月から準備し、7月中旬から英語に翻訳する作業に取り込みました。国際学会で発表内容は原稿を日本語で書いて、指導先生にみてもらい、訂正すべき場所を訂正して

再度確認をとりました。

私の指導先生は日本語の原稿が確定できるまで 4 回も見てくれました。7 月の中旬頃に日本語の原稿ができ原稿を英訳する作業に取り組みました。簡単な英訳で、なお簡潔に述べられるよう心がけました。日本語で 6 ページだった原稿を英語にすると 8 ページにもなり、英語に訳した原稿を学術翻訳・校正専門業者に校正を依頼しました。英語版が確定した後、発表用のパワーポイント作成に取り込みました。画像をいくつか選び、英訳された文章からキーワードとなる文章やフレーズと組み合わせました。そして、英語の原稿を何回も読み上げてプレゼンの練習を行いました。

シンガポールへ行くためのチケットは 6 月下旬から予約し、宿泊については同じゼミの友達と一緒に研究会会場から近いホテルに 7 月上旬から予約しました。私は 7 月 31 日の午後にシンガポールに着き、学会の開催場所へ向かい、学会の参加登録手続きをし、会場を視察しました。



(↑ 研究大会開幕式において)

学会会場はホテルの 2 階にあり、各パネルによって部屋が分かれていました。朝 9 時から午後 5 時半まで 4 回に分けて発表プログラムが組まれ、1 セッションが一時間半でした。1 つのセッションに 4 つのパネルがあり、4 セッションずつ同時に開き、3 日間で 40 件のパネルが発表されました。パネル 1 件に 3 名から 5 名ほどの発表者で構成され、一人に 10 分から 18 分ほどの発表時間が与えられています。世界各国から 130 名の研究者、学者がミャンマーに関してそれぞれの研究を発表しました。

研究大会において、私の発表は大会初日である 8 月 1 日の昼のセッションで、発表テーマは“The role of the mass media in the demand to halt the Myitsone dam’s construction”でした。この発表テーマは私の博士論文の一部でもあり、ミツソンダム建設プロジェクト凍結においてメディアの役割を分析したものでした。私はミャンマー社会におけるメディアの役割について発表しましたが、私が配置されたパネルは「Civil Society」でした。「Media」パネルもあるのだが、なぜ私が「Civil Society」に配置されたのかよくわかりませんでした。

私の発表は学会初日の昼 14 時から始まり、パネルには 5 名の発表者がいて私の発表が 4 番目でしたが、発表直前になって 3 番目に発表する予定の方が不参加で順番が繰り上げられ私が 3 番目に発表することになりました。

研究発表が無事に終了し、初日で発表が終わったため私は残り二日間は他の発表を気楽に聞くことができました。Tea Break 時間といった研究者同士が交流する時間では世界各地からの研究者とも交流することができ、今後の研究について意見交換を行いました。2016 年は Northern Illinois University にて行われることとなり、私もそちらでは博士論文を発表したいと思います。今回の研究大会参加において東京外国語大学の指導教員の方々を始め、東京外国語大学留学生課の方々、留学生支援の会の方々に心よりお礼を申し上げます。



(↑ 研究大会にて発表)



### ジイジのドイツ留学記(第2報)

言語文化学部 ドイツ語専攻3年  
(ドイツ・ゲッティンゲン大学留学中)  
中村 皓一(留学生支援の会幹事)

前回報告の第1報以降約2か月半を経て無事に前期が終了し、長い夏休みに入った。この間、生活面でも健康面でも、また国際交流面でも予想以上に順調に推移して留學生活をエンジョイすることができ、改めてこのような機会をいただけたことに感謝している。

とはいえ当然のことながら、十分な会話能力と欧州文化・風習へ通暁に欠ける身にとっては困惑・当惑・焦燥等々に襲われることも多く、就寝時を除けばまさにひと時も気を許すことのできない日々を送ってきたとも言える。そのような中から、第2報では、①大学における授業の実態、②欧州における日本の位置づけ、③「サッカーワールドカップ」に見るドイツ人気質 という3点に関して筆をとってみたい。

まず①に関してであるが、留学生用のドイツ語授業は事前筆記試験成績に準拠した最大20名程度のクラス編成で、上位のクラスに入れたと喜んだ時がまさに悲劇の始まり、後に“できない生徒”としての悲哀を嫌というほど味わうことになる。

語学とは別に大教室での講義と少人数でのゼミナールがあり、ほとんど制約なく自在に受講できる。私自身は欧州中世史に関する講義に最も魅力を感じて熱心に受講し続けたが、当初は遠慮がちに後方席を確保していたものの徐々に前方へと移行し、学期最終段階では気がつけば最前列、教授も「いったい、このおっさんは何者だ?」と思案されたことだろう。

意外だったのは、授業中に学生が遅れてきたり、平気でトイレに立ったり、飲食したりすること、「えー、ドイツで?」というのが正直な感想である。美しいお嬢さんが教授に堂々と顔を向けてバーガーを口いっぱい頬ばっているのを目にした時、一瞬「君、それは教授に失礼じゃないか?」と言いたかったが、残念ながら

らドイツ語が出てこなかった。

それに反していわゆる市民聴講生は実に熱心だ。講義によっては聴講者の半数を占めてまさに老人ホーム状態、教室の前方に陣取って必死にノートをとり続ける。「いい歳して、ようやるよ!」と思いきや、「待てよ、俺も考えてみれば同類項だなあ!」。毎週そういう連中と世間話をするのも楽しみとなったから、やはり老人ホームかな?

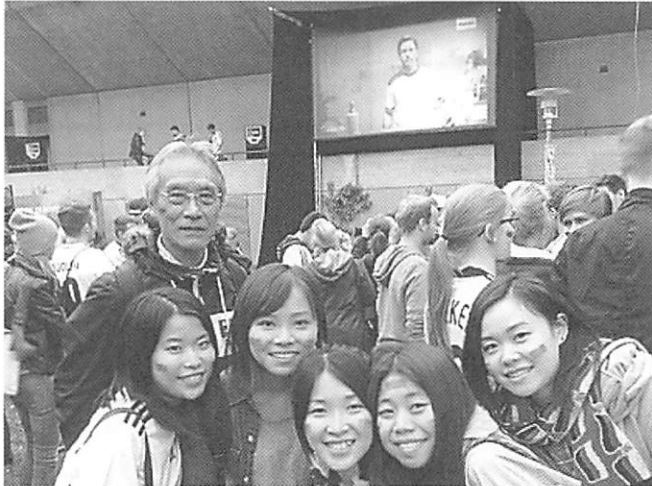
②欧州における日本の位置づけは正直言って低いというのが実感だ。この半年間、欠かさずテレビニュースを見てきたが、日本に関するニュースは私が知る限り4回だけ、すなわちサミットでの安倍首相動向のごく短い紹介、鳥島近傍の新島拡大、そして広島・長崎への原爆投下日の式典だけである。中国に関する情報が頻繁に報道されるのと比較すると彼我の差は顕著であり、留学生仲間で日本に関して会話しても、耳にする単語はせいぜい MANGA, ANIME、それに FUKUSHIMA 程度であろうか。

若い頃はまさに右肩上がりの時代、仕事上でも個人的にも“日本”というブランドを背に持つだけで海外から尊敬され憧れの目で見られてきたが、これからはまさに自身の教養と品格だけが世界に通用する時代。一層自らを磨いていかねばならないと改めて気づく一方で、祖国に誇りを持つ堂々たる日本人たるべく、異国にいるからこそ意識的に姿勢を正し、まさに坂本九の“上を向いて歩こう”を実践している。細いジーンズにラフだが清潔感のあるカラーシャツ、それに蓬色のスニーカーでピシッと決めてキャンパスを闊歩するのが日課となった

③は図らずも留學前半最大の楽しい思い出となった。ドイツ時間7月13日日曜日21時キックオフ、この日はひどい雨であったが、中国・台湾・日本の学生による多国籍アジア留学生連合軍で19時からパブの席を確保して応援、ドイツ人よりも前の席をぶんどってまさに自国のチームの決勝のように声を張り上げた。延長113分のゴールの瞬間、皆で抱き合って喜んだ。

翌月曜日は8時半から文法の期末試験だったので急いで帰宅して少しは睡眠をとるべきだったのであるが、勝利に沸き返る中心街の喧騒に自ら進んで身を投じてしまった結果、睡眠時間は極くわずか、もちろん試験の出来栄はボロボロであったが、でも全く後

悔していない。感心したのは、夜遅くまで騒ぎまくった連中も翌日は何事もなかったかのように働き、学んでいること、そして紙屑やビール瓶が散乱していた現場がこの目を疑うほどに綺麗になっていたこと。栄光は既に過ぎ去ったこと、今日からは新たな1ページ、そういうドイツ人気質を私は最も気に入っている。



(↑サッカーワールドカップ アジア多国籍応援団)

選手団のベルリンへの凱旋のTV中継があった日、図書館内で自分のパソコンに釘付けになっていたが、約100人程度いた学生の中にそのようなことをしている者は無く、皆真剣に勉強していて、なんだか自分が恥ずかしくなってしまうほどである。

以上でジジイの留学記第2報を終えることとしたいが、秋は短くて直ぐに冬がやってくるというこの後期こそ、健康面でも精神面でも正念場である。せっかく獲得した多くの友人が母国へと帰還してしまった今、新たな出会いを求めて期待と不安とが相半ばしているというのが正直なところであるが、何よりも“外大生”という名に恥じぬよう心していきたい。



(↑毎週ドイツ語練習相手をしてくれる Maria, 早稲田大学留学経験があり)

ご入会、ご寄付  
ご協力いただき、ありがとうございます

新規加入者

■ 一般会員(平成26年6月1日～11月10日)  
丹生由莉 (敬称略)

会員寄付者

■ 一般寄付(平成26年6月1日～11月10日)  
安藤浩行、池田修晤、板久恭子、板谷良子、市川能人、伊藤裕明、伊藤正次、伊藤眞由美、井上東一・久美子、上野幸江、大塚定、片岡護、河野喜代子、木全玲子、挙市玲子、古賀まゆみ、小島照恵、五島大介、五味和行、瑞應寺(中島剣山)、鈴木千尋、鈴木文子、立石博高、箱崎洋子、長谷川雄一、菱川和男、古川早紀子、星達雄、本望春夫、宮井捷二、山岸隆夫、横田淳子、吉田展子 (敬称略)

万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節は、当会までお知らせくだされば幸いです。印刷できない外字等、ご了承ください。

11月10日現在  
会員数：1,125名

すべての活動は、皆様の年会費とご寄付で行われております。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込みくださいます様、お願い申し上げます。

※ ひとりでも多くの方々の早期納入のご協力をお願い致します。

※ 振込用紙にメールアドレスをお書き添えいただければ、今後、当会の各種イベントなどの情報をお届けしていきます。

一般会員：年会費 3,000円  
協賛会員：年会費 20,000円



## 平成 26 年度 会費納入のお願い 3月31日(月)まで受付

来年度の活動ご支援いただくためにも、是非会費納入継続をお願い申し上げます。

納入をお忘れの方や、ご入会2、3年目の方々 (平成 24 年度、平成 25 年度ご入会)、本年度会費を同封の振込用紙にてお振込下さいます様、お願い申し上げます。

## ACTIVITIES

### 7. これからの活動

「国際交流の夕べ」  
12月12日(金)

今年も！恒例の留学生との交流を是非お楽しみください。会員のご参加をお待ちしています。

「国際交流の夕べ」

日時:12月13日(金)17時45分～20時

会場:校内学生食堂

費用:無料

どなたでも参加できます。

なお午前中より、着付け・書道・折り紙などの日本の伝統文化体験を諸会場にて実施します。



## 幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

平成 26 年 7 月 12 日(土)

平成 26 年 9 月 27 日(土)

平成 26 年 10 月 19 日(日)

平成 26 年 11 月 16 日(日)

### ホームステイ受け入れのお願い

新しく受け入れてみたいとお思いのご家庭がございましたら、下記までご一報ください。お待ちしております。(幹事 梅田由美子)

連絡先:留学生支援の会

東京外国語大学留学生課

電話:042-330-5183、Fax:042-330-5189

(火、水、金のみ、梅田まで)

E-mail:umeda\_yumiko@tufs.ac.jp



MERRY CHRISTMAS!

<お問い合わせ先>

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学 留学生課気付(梅田、谷川)

TEL:042-330-5183/5759

FAX:042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

©Copyright 2014, TUFSS International Student Support Association

# 東京外国語大学 留学生支援の会

No.48  
年3回発行

Since 1999

## 会報

春のバザー開催！3月30日(月)～4月5日(日)バザー用品募集します！！  
ボランティア募集！バザーの人手が足りません。(詳細14ページ)

Pick Up  
Event 2015

留学生支援の会の幹事になってくださる方はいらっしゃいませんか。  
興味のある方、幹事の役割につきまして当会までお電話でお問い合わせください。

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5183/5759 FAX 042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

## INSIDE

Page 1.	1. 巻頭言 林佳世子・副学長
Page 2.	2. ご挨拶
Page 3.	3. 活動報告 3-1 東京下町文化体験ツアー 石井健夫(日本) 三井景介(日本) 孫迎依(中国) 3-2 国際交流事業 アザル・ミリヤム(シリア) 3-3 各国文化紹介 ナランダ(オーストラリア) 3-4 国際理解教育 ラーソン(アメリカ)
Page10.	4. 留学生の声 張好(中国)
Page11.	5. 会員の声 中村皓一(日本)
Page13.	6. これからの活動
Page14.	春期バザーのお知らせ

## FOCUS

### 1. 巻頭言

#### 留学生・日本人学生と一緒に学ぶ、東京外大へ

東京外国語大学副学長  
林佳世子

皆さんご存知のように、東京外国語大学では多くの留学生が勉強しています。

大きなグループは、まず学部留学生です。言語文化学部日本語専攻と国際社会学部日本地域専攻を中心に、計130名が在籍しています。大学院の諸専攻では留学生214名が学んでいます。以上が、いわゆる「正規生」といわれます。

学部の研究生(80名)、大学院の研究生(15名)、海外の協定校からの交換留学生(101名)は半年から1年、本学で学ぶ仲間です。

加えて、留学生日本語教育センターで1年間日本語を勉強しているのは、日本のいろいろな大学への進学を控えた国費留学生です(61名)。

さらに、世界の各地で教員をしている方々(6名)や、日本研究分野の学生(23名)、研究留学生(9

名)が文部科学省により日本に招聘され、本学で学んでいます。

このように、いろいろな形、いろいろな「身分」で本学で学ぶ留学生の総数は、約 639 名。そして、出身の国や地域は、71 に上ります(平成 26 年 5 月 1 日調べ)。

留学生業務にあたっている留学生課の方々には自明ながら、なかなか一般の学生や教員にピンときていないのが、こうした留学生の多様性です。私もいまだに混乱することがありますが、上のように列举してみると、その多様性を実感できます。

多様性の一方で、留学生の皆さんには、二つの大きな共通点があります。ひとつは、専門分野や年齢はさまざまでも、全員が「日本」(あるいは、日本で学ぶこと)に関心をもって日本に来ているという点。そして、二つめは、そのために「外国」に暮らし、いろいろな問題や困難に直面している、という点です。

第一の点について、本学は、日本語教育や専門分野の教育により留学生の期待に応えてきましたが、今後はいっそう日本に関する教育体制の充実を図っていきます。平成 28 年度に発足する予定の大学院国際日本専攻は、その方向での大きな一歩となることでしょう。世界の言語と地域を教育研究する本学は、同時に、日本に関心をもつ世界の人々にとって日本への「入口」となる大学だからです。

その一方で、第二の共通点への対応はなかなか難しいものがあります。なぜなら、「問題や困難」と一口でいっても、それは、日本全体がかかえる問題であったり、個人に帰結する問題であったり、さまざまだからです。結局は、一人一人に寄り添い、理解し、議論し、少しずつ進んでいくしかないことが多いように思います。

そのような歩みのなかで、大きな力となってくさっているのが、留学生支援の会の活動です。いろいろな問題がありますが、大事なことは、寄り添う人がいること、一人ではないことを実感してもらうことでしょう。支援の会のさまざまな活動は、「外国」で暮らす留学生の大きな支えとなっています。

こうした活動に触発され、学生ボランティアの活動も広がりを見せています。タフコミュや TOFSIA などの学生組織が生まれ、専攻語単位などでの交流も活発

です。

留学生と活動すれば、彼らの直面する問題にも一緒に向き合うことになります。そして、留学生にとって学びやすい、暮らしやすいキャンパスをつくろうという本学学生の努力は、彼ら彼女ら一人一人にとって大きな財産になるものだと思います。その先には、日本や社会全体を、区別や差別のない暮らしやすいものにしていこうとする行動が自然と芽生えてくるからです。

昨年、本学は文部科学省のスーパーグローバル大学創成事業に採択され、今後本学への留学生の数は一層増えていくことになります。それが本学の教育全体にとって大きなプラスとなると信じる理由は、そこにあります。

## 2. ご挨拶

### わが家族一同、インフルエンザとの闘い

会長 中嶋 洋子

会員の皆様は健やかに新年をお迎えでしょうか？

我が家では思いもよらず、インフルエンザとの闘いの新年を迎えることになってしまいました。

同居している上の孫(6歳)が保育園からもらってきたインフルエンザを、8カ月の孫、娘、婿、続いて私と順次全員が受けて立つことになってしまいました。

通常のケースでは、最初猛烈な高熱(38度強)が3、4日続き、後に常温に戻り、注意観察の後正常に戻ることがわかりました。

小さい子どもたちの高温との闘いは見ているだけでも辛い数日でした。娘、婿とて我慢の数日だったでしょうが、通り過ぎれば本当に安堵の気持ちにひたれます。こんな時に健康の幸せを実感しました。

最年長の私が最後でしたが、最後だからたいしたことなくやり過ごせると思いきや、年齢の高い私が、ウイルスとの猛烈で強烈な闘いを演じることになってしまいました。

私自身に自覚はないのに、後で家族に聞くと妄想の世界の話題に触れたり、脳の中身がおかしい(?)

ことを話したりしたので、ついに近所に住んでいる長女夫婦が病院に夜間緊急搬送して調べた結果、堂々たる(?)インフルエンザの患者と診断されたとのこと。

私自身の体温も 38 度を超える数日間をやり過ごし、やがて同じように平穩に戻りはしたものの、その間の脳の記憶があまりにもあいまいで、日程、時間の経過さえも明瞭に理解できず、周りの事実確認もしっかり把握できず、それはもどかしい時間との闘いでした。食欲が戻り、自覚的に生活できるには 2 週間をゆうに必要としたのでした。

娘や婿のインフルエンザウイルスとのやり取りとは、私の場合と、かなり大きな違いを感じました。

インフルエンザのウイルスとは何者か? 調べてみても簡単に回答は出そうにありません。恐ろしいものにつきあったとしか言いようがありません。

世の中には恐ろしいものがある、強烈なものが住んでいる。

おかげさまでそう簡単に経験できそうもないことを経験できたことを肝に銘じ、知らないことに謙虚に立ち向かわねばならない、そんなことを心底感じた体験でした。

# REPORT

## 3. 活動報告

### 3-1 東京下町文化体験ツアー ～隅田川クルーズ、浅草散策、 江戸東京博物館、ちゃんこ鍋懇親会～

日時 2014年12月7日(日)集合時間 11時20分  
集合場所 日の出桟橋東京クルーズ乗船場  
参加者数 留学生 38名、日本人学生 7名、幹事 8名

#### 内容

隅田川クルーズを入れたツアーも今回で4回目となりました。お天気に恵まれて、絶好の散策日和となりました。

いつも混乱する集合場所での受付はとてもスムーズに出来ました。これは、受付を留学生と日本人学生に分け、配布物を五十音順にしておいたこと、日本人学生にリーダーの役割を告げておき、集合場所はどこへ行けばよいかわかるようにしてお



いたこと、名札もグループ毎になっていたこと、など準備段階での工夫のおかげでした。

## 隅田川クルーズ～浅草散策

浅草寺での滞在時間をいつもより長く取ったため、学生たちは浅草をとて楽しんだ様子でした。浅草から江戸東京博物館までのコースの途中、国技館の力士と遭遇し、記念写真を撮ることができました。



## 江戸東京博物館

江戸東京博物館はリニューアル中で、去年より展示物が少なく迫力に欠けました。

## ちゃんこ鍋懇親会

ちゃんこ鍋店では事前に予約した特別な食材配慮が店側にうまく伝わっておらず、食事を始めるのに時間がかかりました。量が足りずに追加注文しました。留学生が自国の歌を歌うなど、とても和やかな会となり、20時過ぎに現地で解散しました。

(竹内幹事記)

## 東京下町文化体験ツアーの感想

### 浅草、両国観光に参加して

総合国際学研究科地域・国際専攻 M1

石井健夫

今回は訳あって浅草雷門から途中参加した。隅田川クルージングには残念ながら参加できなかった。

一応浅草近辺に住んでいるという事もあり、何度か過去に浅草寺に足を運んでいた。よって、今回は浅草が初めてという班の大半の留学生に浅草寺付近の魅力ができる限り多く伝えるという使命感を持って望んだ。

英語やロシア語を使用せざるをえない機会が多々あるかと思いきや、皆さすがに半年以上日本にいただけあって日本語の基礎能力が高かった。よって、説明の多くは日本語で問題なかった。また、日本語読解力も優れていて、博物館に行っても難なく日本語の説明を読み、必要とされる情報を得ているようであった。

しかしながら、普段住んでいるからガイドができるかという、そうではないという事が今回よくわかった。何がどこにあるかは概ね覚えているものの、歴史的建造物の由来や歴史となると答えられない。

また、昼食場所探しにも手間取った。スーパーやラーメン店の場所はわかるのだが、無難に浅草を満喫できる、リーズナブルな店を見つける事ができなかった。上記のようなテーマの店は資金的にも限られている留学生を案内する上で知っておくべき場所であった。

もっと事前に予想される対象のニーズも鑑みた下調べをしておくべきであり、よい教訓になった。

今回は中国、ロシア、トルコなどからの参加者が大半を占めていたのは興味深い。また逆に、欧米からの学生が殆どいなかったのが印象に残った。東京外大在学中の留学生総数の面でも同様の傾向があるとも考えられる。

しかし、単純に日本語能力の問題で今回のイベントを欧州などからの留学生が感知することができなかったのなら残念というほかない。広報戦略拡充の余地はあるとも考えられる。

\*ただし、前までは参加料を取らなかったため、当日キャンセルが続発したとも聞いた。結果的に一番イベントの主題に興味があつて参加したかったメンバーが集まったともいえると思う。

今回は博物館に無料入場させてくれたうえ、量も質とも素晴らしいちゃんこ鍋を食べる機会を与えていただいた留学生支援の会の企画・運営の皆様に感謝をいうほかない。



## 東京下町文化体験ツアーの感想 日本人学生と留学生との交流の場

外国語学部 4 年トルコ語専攻  
三井景介

下町文化体験ツアーの感想を書かせていただきます。

留学生支援の会主催のイベントに参加したのは初めてでしたが、すごく楽しむことが出来ました。50 人を超える大人数でのツアーでしたが、班にわけて行動することでスムーズに動けたと思います。また、クルーズやちゃんこ鍋など浅草、或いは下町ならではの体験も出来て大変満足しています。

東京外大では多くの留学生が学んでいます、彼らと日本人の触れ合う機会というのはまだまだ少ないのが現状です。彼らはせっかく日本まで学びに来たのですから、多くの日本人と交流したいと思っているでしょうし、私たち日本人学生も外国語大学で学んでいる以上、留学生との交流も重要だと思います。

これからもこのようなイベントを通じて日本人と留学生との交流の機会が増えていくことを願っています。

また、「ここはこうした方がいいんじゃないか」と感じた点は、もう少し大々的に宣伝を行うこと、でした。やはり、まだまだ学生の中にはこのイベントの存在を知らない学生も数多くいると思います。留学生と交流したいという日本人学生は決して少なくはないでしょうから、宣伝がすごく大事になってくるんじゃないかと思いました。

以上、簡単ではございますが、留学生支援の会のイベントについての感想を述べさせてもらいました。これからもよろしく願い致します。

## 東京下町文化体験ツアーの感想 充実した楽しい一日

特別聴講学生  
孫迎依(中国)

今回東京下町文化体験ツアーに参加して、本当によかった。午前 11 時 20 分頃、JR 浜町駅に到着し

てから、携帯で調べて集合場所の日の出棧橋に行こうと思ったが、改札を出たら留学生課の人を見た。「TUFS」の標識を持って、私たちに行く道をやさしく教えてくれた。そのあとも、支援の会の幹事さんのおかげで、集合場所の東京クルーズ乗船場待合室にちゃんと着いた。

今回参加する人が多いから、グループに分けて、行動するのはとてもいいと思う。せっかくいろいろな国の人がいるから、一緒に行動することを通して、仲良くなった。できるだけ各国からの人が一つのグループになるようになってくれてありがたかった。朝ごはんとしておいしいクッキーもいただいた。その優しさに感動した。

浅草に行ったことがあるが、水上バスに乗ったことはなかった。隅田川沿いの風景を見ながら、友達としゃべり、写真を撮り、本当に楽しかった。今でも、スカイツリーを見たら、「あ、スカイツリーだ」と喜んで叫ぶ。

浅草は観光客がいっぱいのところだし、今回は日曜日だったので混んでいた。浅草散策の前に、浅草についてちょっと紹介していただけたら良かったと思った。

私は浅草について大変有名な場所だということしか知らなかった。でも、なぜそんなに有名なのかを知りたかった。

そのあとの江戸東京博物館見学はとても楽しかった。1階しか見られなかったが、江戸の歴史を見て、昔の人は本当に頭いいなと思った。江戸文化の体験はとても面白かった。人力車に乗ったり、写真を撮ったり、なかなかできない体験できて、本当によかった。時間的にはもう少し時間があると、もっといいと思った。

幸運な私たちは相撲国技館を通った時、お相撲さんと出会って、一緒に写真も撮っていただいた。「お相撲さんはこういう感じだな」と思った。機会があれば、お相撲も見てみたい。

晩御飯は相撲力士の力の源、毎日の食事である「ちゃんこ鍋」を食べた。さすがお相撲さんが食べる料理だ。ちゃんこ鍋を食べて、もうおなかいっぱいになった。本当にご馳走様だった。

食べている間に、何人の留学生が自分の言葉で自分の国の歌を聞かせてくれた。歌は本当に国境を越えられると思った。

本当に充実で楽しい一日だった。

### 3-2 国際交流事業「日本文化交流会」と留学生友好交流のための懇親会「国際交流の夕べ」が楽しく、賑やかに開催されました！

日時 2014年12月12日(金) 13:00~19:50

会場 大学会館と国際交流会館交流ホール

留学生にとって毎年楽しみの、大学と支援の会共催の国際交流事業が開催されました。

#### 第1部の「日本文化交流会」

恒例のごとく、「着物体験教室」、「華道教室」、「茶道教室」、「囲碁教室」、「折り紙・和紙人形・墨絵教室」の5つの体験教室を開きました。

留学生たちは、自分の興味に任せてそれぞれの教室に参加し、初めて体験する日本文化を楽しみました。着物はやはり一番人気があり、振り袖姿になった留学生は日本美人になった心地がしたようでした。

お茶、墨絵等、楽しく経験する中で、留学生達は日本をより理解し、日本を好きになったことと思います。

#### 第2部の「国際交流の夕べ」

留学生との交流・友好の場である懇親会には、日頃留学生を支援、協力してくださっている来賓の方々、大学関係者と留学生、日本人学生とで総勢300名ほどが参加し、互いに食事を共にしながら交流を楽しみました。

留学生司会による後半は、タジキスタンの留学生による歌、支援の会演出の「面白歌舞伎」、福引、日本人学生グループのポンダンスや楽器演奏、その他、留学生課の職員によるAKBのフォーチュンクッキーの歌とダンスなどで盛り上がりました。

予定の2時間があっという間に過ぎてしまいましたが、昨年より日本人学生の参加が多く、今後留学生と日本人の交流の活性化が期待される夜となりました。

\*\*\*\*\*

第1部 13:00~17:00 日本文化交流会 170人参加

(1) 着物の着付け(国際交流会館2号館交流ホール)参加者50人

(2) 華道 学生会館集会室B)参加者30人

(3) 茶道(学生会館和室)参加者30人

(4) 日本の伝統的遊び(学生会館大集会室)

参加者50人

(5) 囲碁(学生会館集会室A)参加者10人

第2部 17:50~19:50 国際交流の夕べ[懇親会]

(学生会館1階ホール)参加者300人(留学生200人、日本人学生50人、来賓、大学関係者50人)

\*\*\*\*\*

今年度は広い方のホールがメイン会場になっていたため、パフォーマンスも見やすく、全体に一体感が感じられて良かった。パフォーマンスの中でも支援の会脚本による「面白歌舞伎」は、留学生が日本語で演じた初めての歌舞伎であったが、役を演じた留学生もとても上手で、パーティの参加者全員から大喝采を受けた。

演じた留学生も達成感を感じた様で満足していた。

次回も留学生主体の出し物が出来るように支援の会も企画に協力することになった。

(梅田幹事記)



#### 楽しかった歌舞伎経験

ISEP

アザル・ミリヤム (シリア)

歌舞伎経験は非常に楽しかったです。日本語の勉強になったし、日本の文化についてもさらに習いました。参加する前は歌舞伎についてあまり知らなかったが、参加後、興味を持って色々探して学びました。

歌舞伎の衣装を着るのも初めてで、とてもすてきだと思いました。友達と歌舞伎の練習をして、仲がもっと良くなりました。参加して、本当に良かったです。

### 3-3 留学生と日本人学生の交流をめざして

#### 留学生による各国文化紹介 ～伝統的なお茶とお菓子を楽しむ！～

日時 2015年1月28日(水) 11:50～14:00

会場 アゴラグローバル1F Café Castalia

東外大留学生支援の会主催の、今年度2度目の各国文化紹介がアゴラグローバルCafé Castaliaで開かれ、日本人学生、留学生合わせて150名が参加しました。

#### 内容

ウズベキスタン、タイ、韓国の3か国が参加しました。各国の留学生がそれぞれ自国の伝統文化、教育、宗教、等を持ち時間5分で発表し、それぞれの料理、お菓子、飲み物を披露しました。

#### ウズベキスタン

料理: カニサラダ、チャクチャク(小麦粉の菓子、食べるとそのような音がするので)、紅茶

#### タイ

料理: タイグリーンカレー、タピオカのデザート、ノムイヤン(イチゴミルク=飲物)

#### 韓国

料理: トッポッキ、ユックア(油菓)、ヤックア(菓菓)、五味子茶(オミジャ茶)

#### 感想

それぞれ5分間のプレゼンテーションが3か国ともスムーズに行われました。各国とも民族衣装を披露してくれたので、異国情緒たっぷり美しく華やかでした。

さらに各国の料理、菓子、飲み物もそれぞれ前日より手間をかけただけあってどれも美味しく、参加した学生達も喜んで食べていました。

今回は試験期間中だったためか日本人学生、

留学生とも参加者が少なかったことが残念です。

ランチに用意したサンドイッチ、巻き寿司もたくさん残ってしまいました。プレゼンテーションの後、すぐに3か国の料理とランチ用寿司等同時にサービスしたので先に暖かい料理に目がいったのも当然だったと思います。

サポートして下さいった留学生課のスタッフの方々に感謝します。

(井上久美子幹事記)



#### 各国文化紹介——タイ

AA 研究所インターン  
ナランダ(オーストラリア)

私は10年間タイで育ちました。今はオーストラリアに住んでいますが、毎日お母さんと一緒にタイ料理を作ります。そして3年前、メルボルンでお母さんがタイレストランをオープンしました。その時、私は毎日タイ料理を作りました。オーストラリア人と外国人が、私たちが作った料理を褒めて、楽しんで食べてくれたので、心から嬉しく思いました。

各国文化紹介——お茶とお菓子を通じての今回はタイ、韓国、ウズベキスタンの番となりました。初めて担当となったので、準備などが大変でしたが、楽しか

ったです。素晴らしい時間を過ごせただけでなく、大変勉強になったと思います。

タイ料理の材料を探すのはちょっと大変でしたが、渋谷にあるタイ料理の専門店で欲しかった材料を見つけました。デザートの方は一番難しかったと思います。タイ人なのに、こんなタピオカから作られた、伝統的なデザートを作ったことは初めてでしたから、いろいろなことがわかるようになりました。

私たちはタイの民族衣装を着て、タイのことを5分以内にわかりやすく、観光や主要エリアや料理などのことについて発表しました。一番感動したのは、皆タイのことに興味を持っていることでした。皆、私たちに色々なタイのことを質問して、他の国の文化と歴史の情報を交換することを出来ることは、とてもいいことでした。

皆が、私たちが作った料理を楽しんで召し上がっているところを見たら、「ここまでがんばってよかった」と思っちゃいました。担当の皆さん、フォローしてくださったり、作業を手伝ってくださったりして、本当にありがとうございました。そして、このイベントにいらっやってくれた方々、ウズベキスタンと韓国料理をなさった先輩方の皆さん、本当にお疲れ様でした。

ある小学校では、日本文化について留学生に理解してもらうためにグループごとに準備をして発表し、次の授業で留学生に自国の文化について話しをしてもらい、相互理解を深める授業を行っていました。

最初にベラルーシや、ウズベキスタンの学生が自分の国の言葉で挨拶、自己紹介をした時「分からない!」「何語?」と驚き、そのあと日本語でしゃべり始めた留学生の日本語力にまた戸惑っていました。

知らない言葉を習って覚えて大声で言えた嬉しさ、初めて会った外国の人の優しさ、文化の面白さ等、この時教室で学んだり遊んだりした感激は、一生忘れられないことと思います。

また、ある中学校では、多言語多文化学習の授業の一環として外語祭に参加し、世界の食文化を体験することで世界に興味を広げ、そこで興味を持った国の留学生から直接それぞれの国の文化を学び、将来への夢を広げています。

留学生と子供たちの双方にとって、貴重で有益な体験のできる事業に協力できることは、支援の会としても嬉しいことです。

以下、はるひ野中学校1年生の感想文と、はるひ野中学校へ行った留学生の感想、府中第十小学校の授業の様子報告をお読みください。

(梅田幹事記)

### 3-4 小中学校の国際理解教育の授業に留学生を派遣

#### 留学生が講師として呼ばれる授業が増加

これまで、近隣の幾つもの小中学校から依頼され、国際理解の授業に留学生が講師役を務めてきました。

昨年末からこの2月までに、府中市の四谷小学校、第10小学校、武蔵台小学校や、川崎市の西生田小学校、はるひ野中学校、東村山市の南台小学校と、依頼される学校が増えてきています。

同時に参加する留学生の人数も増え、留学生たちの発表の内容も充実してきており、子供たちとの交流をとっても楽しんでいます。

#### はるひ野中学校1年生の感想文

◇外語祭や、留学生の話を通して、たくさんの国の文化に触れることが出来ました。その中でも留学生の話聞くことによって、日本との違いをより知ることが出来ました。ブラジルはサッカーだけでなく、他のことについても話してもらい、もっと調べてみたいと思うようになりました。日本に似ているところもあったので、聞いてとても楽しくなりました。フィリピンでは日本のジャンケンが伝わっていることを知り、日本の文化があることにびっくりし、すごいと思いました。今後もっとたくさんの国の文化を知りたいと思いました。(1年2組)

◇私は将来、国際関係の仕事に就きたいと思っていて、今回の交流の授業はとても楽しかったし、外国が

とても身近に感じられた。3 人の留学生が学校に来て、私たちに色々なことを教えてもらった時、それぞれ違ってとても面白かった。特に印象に残った国は、アメリカのベンジャミンさんの授業です。アメリカの人たちは心が広いということが実感できたことだった。外語祭に行った時も留学生の話聞いた時も、より一層外国が好きになったし、外国の文化に触れることが出来て、とてもよかった。(1 年 3 組)

## はるひ野中学校での自国

研究生

ベンジャミン・ラーソン(アメリカ)

2015 年 1 月 21 日に、私のはるひ野中学校に行き、自分の祖国であるアメリカを 60 人ぐらいの中学生に紹介した。

アメリカを「競争者」としてみなしていた明治の日本、「敵」としてみなしていた昭和初期の日本、「同盟国」としてみなしている戦後の日本、いずれの時期の視点からみ考えても、アメリカは日本の近代史に大きい影響を与えていることに違いない。

あるいは、アメリカの音楽・映画・テレビ番組が日本を含めて世界中に普及しているのは、はるひ野中学校の生徒の皆さんはすでにアメリカについて何かわかっているはずだ。そこで「アメリカの人口は...」、「アメリカの首都は...」のような平凡な事実より、アメリカ人の個性と心理とアメリカの多様性を紹介したいと思った。

上記の目的を達するために、アメリカの歴史における奴隷体制、黒人と女性のために投票権を得る奮闘、南北戦争などの悲劇的なこととアメリカ人による大成功を紹介した。

その次、アメリカの地理の多様性とアメリカの人種の多様性を紹介した。

最後に、アメリカ人が歴史の悲劇になぜ耐えてこれたかという、アメリカ人が本質的に「楽観的」な民族だからと結んだ。

2014 年に東京外大で行われた「外語祭」でも、内容がだいたい同じ発表をした。

今回と前回の発表では何が違ったかという、はるひ野の生徒たちはより賢く私の質問に答えたことだった。アメリカ人の人種的多様性を紹介した時、「アメリカ人をどうやって気づきますか?」と聞いた。「白い皮膚」、「金髪」などの表面的なことを答えると思っていたのに、ある生徒が早く「パスポートを見る」と答えた。とても賢い答えで感動した。

発表の最後には、生徒に「Home is where the heart is. (心の在り処こそ、家と言える)」という一つの英語の表現を教えた。

「私の家の写真を見せる」と言い、東京外大の写真を見せた。なぜ東外大の写真を見せたかというのは、アメリカ人にとって、自分が居る所より、「居たい」所が大切であることを示すためである。

はるひ野の生徒たちの激しい歓迎を受け、その信念の真理を実感した。

## 府中市立府中第十小学校留学生講師派遣報告

日時 2015 年 2 月 6 日(金)10:35 ~ 12:10

場所 府中市立府中第 10 小学校 視聴覚室

参加留学生国籍 シンガポール、スロベニア、ウズベキスタン、ロシア、ネパール(以上 5 개국 6 名)

### 内容

第 3 学年の 4 クラス 130 名の児童を対象に、外国人留学生との交流を通して、外国に対する興味・親しみをもつきっかけとすることが目的。

各留学生が、10 分程度の持ち時間で、パワーポイントによるプレゼンテーションを行った。発表の後、子供たちとの質疑・応答の時間が持たれた。

### 感想

時間が限られているということで、あいさつもそこに発表が始まりました。小学校 3 年生といえば、社会科では身近な市区町村についての学習を深めている年頃ですので、外国についての知識のある子供は少ないものと思われます。



留学生が、世界地図で出身国の位置関係を示して、国土の広さや人口は、日本の何倍、東京 23 区と同じくらい、という風に説明したので、理解しやすかったようです。

発表の中で、自分たちもよく知るマーライオンやプーチン大統領の画像が出てくると、歓声が上がりました。

事前指導で質問は発表が終わった後で、と釘を刺されていたようですが、興味のある内容では、盛り上がってとっさに質問し、先生に制される場面もありました。留学生が子供の気持ちを汲んで、質問内容を話題に入れて、上手に軌道修正する様子に、先生方が感心していました。

ウズベキスタンのアフマトウァさんが持参した民族衣装を代表で着せてもらった 2 人の子供たちは、休憩時間に友達に囲まれてご満悦の様子でした。

最後に発表したネパールのプルナさんの画像が映せないというハプニングがあり、残念でした。別の機会に、ぜひもう一度披露していただきたいと思います。

ギャングエイジなどと呼ばれる、難しい年頃の子供たちですが、熱心にメモを取りながら、落ち着いた様子で発表を聞いてくれました。子供たちはこの後、今日の内容を、新聞にまとめるという課題に挑戦するようです。きっと楽しい新聞が出来るものと期待しています。

(佐久間幹事記)



# VOICE

## 4. 留学生の声

### 4-1 東京外国語大学での思い出

大学院生  
張好(中国)

日本に留学してからもうすぐ三年になります。そしてもうすぐ卒業の季節が来ます。あっという間のような感じがありますが、東京外大で忘れられない留学の思い出が一杯です。

最初は研究生として在籍していました。新しい生活に対する不安を抱えながら、学校に通っていました。段々友たちも出来るようになり、留学生課や支援の会が開催する様々な活動に参加して、新生活を楽しめるようになりました。

日本文化や社会を留学生たちに親しんでもらうため、留学生課、支援の会は様々な見学活動やイベントなどを開催しています。

一回、浅草の一日見学の活動に参加したことがあって、それで初めて浅草寺を訪ねました。違う国からの留学生と一緒に、雷門で写真を撮ったり、人形焼を食べたり、日本ならではの風情を感じました。

午後は江戸川区の博物館を見学し、昔の人々の生活を感じました。そして、夜には皆が楽しみにしていましたちゃんこナベ！お相撲さんが普段食べているらしいと聞いて、興味がますます湧いてきた覚えがあります。そしてなんと食べ放題でした！

それを聞いた皆が大興奮し、ちゃんこナベで一日の疲れが癒されました。なかなか自分だけではできない経験をしました。

東京だけではなく、留学生課が開催している活動の中、毎年を目玉と呼ばれているのはやはり夏の「京都・奈良見学旅行」ですね。二泊三日の旅で、京都と奈良のお寺を見学するという旅でした。なかなか自分ではできないので、頑張って応募しました。

出発の日の朝は東京駅で集合、皆で新幹線に乗って京都に向かいました。到着した後、ガイドさんが優しく案内してくれたり、日本文化のクイズも出してくれまし

た。そして、京都の清水寺を始め、有名な寺をめぐり、ガイドさんの説明を聞いて、とても感動しました。

夜は留学生課の先生と一緒に食事をして、楽しかったです。同じ大都市なのに、東京とは全く違う雰囲気、すごく新鮮で面白かったです。そして夜は自由時間で、大阪まで行った留学生もいました。近いですからね。

大学院に入ってからこのような活動に参加したりする事が少なくなったけれど、時間や機会があればいつも留学生課に寄って、「なんかあるかな」って思いながら掲示板の情報を見ていました。

留学生課や支援の会で開催されている活動はただの遊びではなく、留学生にとってはすごく貴重な日本文化や社会を勉強するチャンスでもあります。東京外大に入ってよかったって心から思いました。

3月には卒業の季節が来ます。寂しく思いますが、お世話になった留学生課の先生方、外大で出会った素敵な人たちに、「ありがとう」と言いたいです。



(私がドイツで最も気に入ったリューベックのホルステン塔)

文献や原資料の漁読に没頭したが、一方でこの間息抜きで訪れたシュヴァルツワルト(ドイツ)、チロル(オーストリア)、ポルト(ポルトガル)では、留学生仲間とともにユースホステルを渡り歩きながら陽光溢れる欧州の夏を堪能できた。

さて10月半ばからの後期、海外で学ぶという貴重なチャンスを逃さぬようにあれもこれも受講登録(ドイツ語6コマ/週、中世史7コマ/週)していざ新学期に臨んだが、ドイツ語での受講・予復習を前提としたこのカリキュラムには無理があり、ほどなく破綻して最終的には週8コマに落ち着いた。

この間に使った重要な単語、サボる=schwanzen、(受講登録を)取消す=abbrechen は実体験から学んで忘れられない単語となった。

最後まで頑張り通した中で最もストレスを感じたのは“ハンザ同盟史”というゼミナール、いわゆる講義ではなくて議論中心の場である。この講座は歴史学科本科生のためのものであるから35名の受講者は私を除いて全員ドイツ人で留学生は皆無、そして20歳前後の若者、しかも皆クラスメート同士であるから、四面楚歌どころか34面楚歌、さすがの私も辛かった。

どう開き直ったかという、最初は一番後方の席で遠慮気味に隠れるように受講していたのをある時以降全員から丸見えの特等席に陣取り、「文句あつか！俺だって一応学生なんだ！」という感じで皆を睥睨するように変えた。

最終的には単位取得条件の大論文(A4で18枚)を提出し、外大基準でいう「B」(外国語学部時代の「良」)をいただけたのでまあ良しとするが、あと僅かで「A」(「優」)だったのでそれが至極残念である。

## VOICE

### 5. 会員の声

#### ジジイのドイツ留学記(最終回)

言語文化学部 ドイツ語専攻3年  
(ドイツ・ゲッティンゲン大学留学中)  
中村 皓一(留学生支援の会幹事)

昨年3月に渡独してはや11か月、私の留学生活も残すところ僅かとなってしまった。今回は3回にわたる手記を総括する意味で、“留学で何を得たのか？”について思うところをまとめてみたいが、その前に前報以降の主要な出来事について簡潔に触れることとする。

長かった夏休みではあったが、自分なりに計画した勉学計画をほぼ全うできたこともあって、留学期間の中で最も充実したものとなった。土日も朝から夕方まで大学図書館の定席を確保し、日本では入手困難な

さて本題の留学総括に入ろう。私が得たもの、それは結論的に言えば、①世界における自らの立ち位置を決めることができたこと、そして②そこに存在感を持って立ち続けることができるために自らが具備すべき要件を知ることができたこと、である。

よくグローバリズムという言葉が使われるが、それは外国語が話せるとか、海外に長く住んだことがあるとかを意味するのでは決してなく、国家を超えた汎地球主義的思考形態やその状態を指すものであるが、まさにその真の意味でのグローバリズムの意義に少しでも触れることができたと思う。

ヨーロッパにいと日本はまさに“極東”、そもそもアジアの歴史は殆ど教えられていないから一部のマニアを除いて誰も全く知らないし、つい数年前までは世界第二の経済大国であったと言っても何の価値も持たない。

すなわち、「私は〇〇人です」と背中に書いて歩いても何の意味もない位に我々が住むこの地球自身がグローバル化してきたということを留学中に痛感させられた。そこでは国や地域ではなくて、“私”という個人こそが存在する意義を有するのである。

留学期間中に得た友人の多くは政府間同士では対話さえ満足にできかねる国からの学生が多く、話しているとしばしば我が国籍を忘れて没頭している自分に気づく。彼らの帰国時にはお互いに抱擁しつつ、おそらく二度と会うことがない別離を惜しんで心の中で泣いたものだ。

また、東南アジア、アフリカ、東欧諸国からの連中の真面目な勉強態度や高い教養には何度も驚かされた。20代半ばでよくぞこれだけの人間的魅力を身に着けたものだと感動させられた台湾からのお嬢さんにも出会うことができた。

彼等一人一人が私にとっての師であり、数え年では既に古希に達しているこの私が世代を超えて世界中の若者から学ぶことができたもの、すなわち「人間としてのあるべき論」が留学で得た私の宝である。

彼等の会話や行動から迸る知的な迫力と精神的な魅力に接し、そこから私は教訓として「世界普遍的な古典、啓蒙的思想、宗教、歴史感等に関する深淵な教養」こそが結果として豊かな人間性を育み、世界人

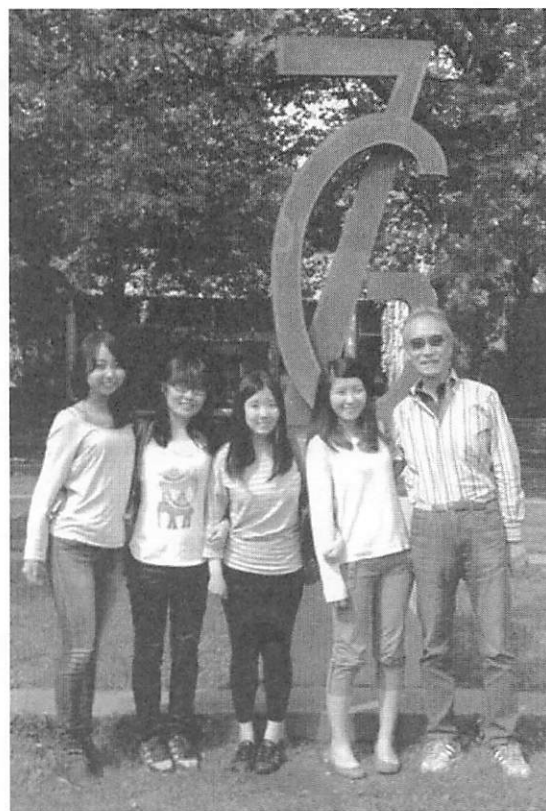
としての自分の立ち位置を見出すことができるのだと感じることができた。

我が国の小中高教育界では未だに外国語教育不要論が根強いと聞くが、いったいその方たちはどのような方法で世界の一員であり続けようとしているのだろうか。「日本にいて英語の必要性を感じたことが無い」、「必要な専門家だけいればいい」というような議論が現実的に公的な委員会で見られることに呆れを超えて恐怖さえ抱く。

そのような蒙昧な意見に惑わされず、これからの若者は一人一人がそれぞれの方法で自ら世界の一員として育ち、羽ばたいて貰いたいと切に願う次第である。

日本人であるということをも自分自身の心の中での誇りとするのは当然で私自身もその通りであるが、「私は日本人だ」では通用しない。幸いにして我々の学び舎はこのようなあり方を具現するための最前線に位置しているわけであり、私も一学生として気力の続く限りその一員であり続けたいと願っている。

帰国を間近に控え、目に浮かぶは外大キャンパスと大好きなアゴラ・カフェ、そこで今度は海外からの留学生の皆さんとケーキとコーヒーで語り合いたい。



(忘れられぬアジア留学生仲間達(私以外、右から 台湾、韓国、中国、それに日本(外大先輩太田さん))

ご入会、ご寄付  
ご協力いただき、ありがとうございます

新規加入者

■一般会員(平成26年11月11日～27年2月5日)

小林浩、森勇造 (敬称略)

会員寄付者

■一般寄付(平成26年11月11日～27年2月5日)

池谷貞悟、上原尚剛、北村みどり、小泉和生、小林浩、  
杉山信弘、鈴木正道、田中良典、頼母木久代、  
中村宏、野本京子、藤井隆雄、松下宗柏、松本俊、  
三宅真理、山中明香里、横石邦彦、渡辺恵子 (敬称略)

※万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節  
は、当会までお知らせくだされば幸いです。印刷できない外字等、  
ご了承ください。

2月5日現在  
会員数：1,128名

すべての活動は、皆様の年会費とご寄付で行われております。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込くださいます様、お願い申し上げます。

※ひとりでも多くの方々の早期納入のご協力をお願い致します。

一般会員：年会費 3,000円

協賛会員：年会費 20,000円

♪ 年度末までのお願いです ♪

平成26年度 会費納入のお願い  
3月31日(火)まで受付

来年度の活動をご支援いただくためにも、是非会費納入継続をお願い申し上げます。

納入をお忘れの方や、ご入会2、3年目の方々(H24年度H25年度ご入会)、納入率アップには是非ご協力下さい。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込下さいます様、お願い申し上げます。

## ACTIVITIES

### 6. これからの活動

3月20日(金)  
古都鎌倉見学旅行

日時 3月20日(金)

募集人数 留学生30名、日本人学生10名

コース 新宿駅西口集合ーバスで鎌倉へー

円覚寺ー鶴岡八幡宮ー由比ヶ浜(昼食)

ー長谷寺ー鎌倉大仏ーバスで新宿へ

※コースは変更する場合があります。人数に制限があり、留学生と付き添い幹事のみでの参加とさせていただきます。ご了承ください。

### 幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

平成27年1月11日(日)

平成27年2月15日(日)

平成27年3月22日(日)(予定)

### お問い合わせ先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学 留学生課気付 (梅田、谷川)

TEL: 042-330-5183 / 5759

FAX: 042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

©Copyright 2015, TUFSS International Student Support Associati



